

緑色のものは、PP資料のNoteに詳細説明あり

ワークパッケージ	説明・技法・ツール・リファレンス・事例	枚	ソース	Note	内容説明	
001. スコープの設定および事業概要と事業構造の把握	M001-000	説明(スコープの事業概要等の把握の主要アクティビティ)	1	11B-1	1	対象スコープの事業概要や事業構造等の把握の主要アクティビティを説明したもの。対象に関わる組織、バリューチェーン特性、主要ステークホルダ等を特定することで、事業概要と事業構造等を早期に把握する。フェーズⅡ、Ⅲから始める場合も実施する。
	M001-102	説明(用語集の作成)	1	11B-2	1	その企業、その中の事業ドメインに関する特有の用語を説明したもの。組織、情報システム、製品、部材、プロセス、情報(データ)などに関して、その意味(同音異義は別々に)や略称を説明。
	M001-201	OUT(バリューチェーン特性調査シート(業種別))	1	11B-3	1	製造業、卸売業、小売業、サービス業別に、バリューチェーンの特性と構造の概要を調査・把握するためのシート。顧客特性、サプライヤ特性、製品・サービス特性、各業務形態などの調査項目がある。
	M001-203	事例(バリューチェーン特性調査シート)	1			バリューチェーン特性調査シートの事例。
	M001-302	事例(レベル1プロセス図)	6		1	レベル1プロセス図(含むステークホルダ関連図)の例を説明したもの。先頭ページに各々の例一覧の説明あり。例3については、Note欄に詳細説明あり。
	M001-502	説明(ERMチェックリストによる成熟度診断)	1			APICSが作成した組織成熟度診断用のチェックリストであり、顧客志向、全社観点、経営品質、社員に関する25個の質問項目がある。
	M001-502A	ツール(ERMチェックリスト)	1			同上のチェックリスト。
	M001-503	ツール(オリバーワイトのクラスAチェックリスト)	1			オリバーワイト社が開発したチェックリストであり、戦略的計画立案プロセス、人材管理および指導、ビジネス改善力、統合ビジネスマネジメント(S&OP)、プロダクトおよびサービス管理、需要管理、サプライチェーンマネジメント、内部供給管理、外部調達管理という9つの分野に関して、各々10個強の質問項目がある。
	M001-901	OUT(事業環境情報シート)	1	11B-5	1	事業環境(マクロ環境、タスク環境、内部環境)に関する情報を集約するためのシートです。「事業概要と事業構造の把握」において既に収集した情報もあります。あくまでこのシートで情報を収集する訳ではありません。
002. 当該フェーズの準備	M002-011	OUT(ドメイン特性調査シート)	1	11B-6	1	バリューチェーン(広義)の特性、およびバリューチェーン(広義)の特性から影響を受ける、(自社固有)ドメイン特性の要素を説明したもの。これから、製品の製造工程や重要なプロダクト・リソースを特定できます。そして、これらが必要な業務機能やビジネスプロセスを決定します。
	M002-021	OUT(プロダクト特性調査シート)	1	11B-7	1	バリューチェーン特性から影響を受ける、(自社固有)ドメイン特性の詳細としての(自社固有)プロダクト特性の要素を説明したもの。これから、特定品目Gの特性、用途、製品特性、物理特性、品質・包装・在庫保管・輸送の制約を特定できます。そして、これらが業務機能やビジネスプロセスに影響します。
合計		16		7		
100. フェーズⅠ概要	M100-002	説明(フェーズⅠの概要)	1	11B-14	1	フェーズⅠの主なインプットは、事業目標、事業戦略(この策定は別フェーズ)、そして工場や本社系部門からの業務課題、アウトプットは、業務改革モデル(レベル2)、業務改革構想書、次フェーズのプロジェクト
	M100-003	説明(フェーズⅠの成果物と要素成果物)	2	11B-15,16		当フェーズにおける成果物と要素成果物、その内容を説明。
	M100-004	説明(フェーズⅠのバリエーション)	1	11B-17		当フェーズのバリエーション別に、必須またはオプションとなるWPをピックアップ、大概の期間と工数例を記載。
	M100-005	説明(フェーズⅠ:プロセス参照モデルがない場合の制限事項)	1	11B-18		プロセス参照モデルが存在する場合、業務機能体系表だけが存在する場合、業務機能体系表もない場合、この3つのケースについての制限事項をリストアップしたもの。
105. 事業目標の確認と構造化	M105-000	説明(事業目標の確認と構造化の主要アクティビティ)	1	11B-20	1	既に策定された事業目標を確認して、目標値を構造化(上位、中位、下位)し、パフォーマンスマトリクス(レベル1、レベル2、レベル3、パフォーマンスドライバ)に対応付ける。場合によっては、事業目標値を再設定する。
	M105-001	説明(事業目標・戦略の構造化による業務改革モデル定義)	1	11B-21	1	事業目標と事業戦略から業務改革モデルを定義するステップを説明。事業目標を確認して階層レベル2まで構造化し、事業戦略を確認して階層レベル2まで構造化した業務改革モデル案を作成し、両者の整合性を確認して業務改革モデルを確定する。

緑色のものは、PP資料のNoteに詳細説明あり

ワークパッケージ	説明・技法・ツール・リファレンス・事例	枚	ソース	Note	内容説明
	<a href="#">M105-202</a>	事例(事業目標の構造化)	1	11B-22	事業目標をBSCの視点から構造化し、さらにそれをSCORマトリクスのレベル1~3、およびパフォーマンスドライバ(先行指標)と対応つけた例。
	<a href="#">M105-301</a>	事例(サプライチェーン目標の設定例)	2	11B-23,24	サプライチェーン目標を数値的なSCORマトリクス(レベル1~3)に再設定し、それを金額的に換算し直した例。
	<a href="#">M105-302</a>	ツール(SCORマトリクス調査シート)	1		信頼性、応答性、柔軟性、コスト効率、資産効率の観点からのSCORマトリクス(レベル1~3)の現状を調査するためのシート。
106. 事業戦略の確認と構造化による業務要求の抽出	<a href="#">M106-000</a>	説明(事業戦略の確認と構造化の主要アクティビティ)	1	11B-25	1 別フェーズなどで既に策定された事業戦略について、事業環境情報シートに集約された情報をもとに外部環境と内部環境の面からSWOT分析などによって分析して、さらに戦略課題(レベル1)および業務要求(レベル2)に構造化して、これを公式化する。
	<a href="#">M106-001</a>	説明(事業戦略の確認、戦略課題・業務要求への構造化)	1	11B-26	市場環境分析、SWOT分析、戦略課題と経営機能別業務要求の抽出など、事業戦略の構造化のための一連のステップを説明。
	<a href="#">M106-052</a>	事例(市場環境分析図)	1	11B-28	1 事例Aにおいて、フェーズIの【106】「事業戦略の確認と構造化による業務要求の抽出における」要素成果物として、市場環境分析図を説明したもの。
	<a href="#">M106-203</a>	事例(SWOT分析図)	1	11B-31	SWOT分析によって、A~Fまでの5つの事業戦略を抽出した例。各々の戦略は戦略パターンに沿っている。
	<a href="#">M106-204</a>	事例(クロスSWOT分析図)	1	11B-33	1 事例Aにおいて、フェーズIの【106】「事業戦略の確認と構造化による業務要求の抽出における」要素成果物として、クロスSWOT分析の結果を示したもの。
	<a href="#">M106-401</a>	OUT(戦略課題分解シート)	1	11B-35	事業戦略を戦略マップを使って、顧客の視点、プロセスと学習と成長の視点にマッピング。各々の戦略をQCTSの観点から戦略課題(レベル1)に分解するためのシート。
	<a href="#">M106-402</a>	技法(事業戦略の戦略課題への構造化)	1	11B-36	1 抽出した事業戦略や経営機能別戦略について、これを戦略課題分解シートを利用して、QCTSやプロセス・組織・情報・プロダクトなどの観点から戦略課題(レベル1)に分解する技法を説明したもの。
	<a href="#">M106-403</a>	事例(事業戦略の構造化(戦略課題))	1	11B-37	1 事例Aにおいて、フェーズIの【106】「事業戦略の確認と構造化による業務要求の抽出における」として、戦略課題構造化シートを利用して、事業戦略を経営機能別戦略に要素分解し、かつ経営機能別戦略をQCTSの観点から戦略課題に詳細化した結果を示したもの。
	<a href="#">M106-406</a>	事例(戦略課題のバリューチェーンへのマッピング)	1	11B-38	同上の事例。
	<a href="#">M106-501</a>	OUT(業務要求分解シート)	1	11B-39	戦略課題とそのCSFを業務機能ドメイン(レベル2)上の業務要求に分解するためのシート。
	<a href="#">M106-502</a>	技法(戦略課題の業務要求への構造化)	1	11B-40	1 抽出した事業戦略を分解した戦略課題(レベル1)について、これを業務要求分解シートを利用して、業務機能体系表のレベル2に分解する技法を説明したもの。
	<a href="#">M106-503</a>	事例(事業戦略の構造化(業務要求))	1	11B-41	1 事例Aにおいて、フェーズIの【106】「事業戦略の確認と構造化による業務要求の抽出における」として、業務要求分解シートを利用して、戦略課題を業務要求に分解した結果を示したもの。
110. 工場系業務課題の抽出	<a href="#">M110-001</a>	説明(工場系業務課題の抽出の主要アクティビティ)	1	11B-43	工場経営課題や工場SCM課題、そして業務課題をインタビューして、工場系業務課題を抽出するためのアクティビティを説明したもの。
	<a href="#">M110-011</a>	OUT(工場経営課題インタビューシート)	1	11B-45	工場長に対して、工場全体の業務課題をインタビューするためのシート。
	<a href="#">M110-201</a>	OUT(SCネットワーク分析チェックリスト)	1	11B-46	工場、倉庫や物流センターに対して、その地理関係、プロセス関係、組織の役割・責任関係の面から、モノと情報の流れに潜んでいる、原因としての業務課題(レベル2)を引き出すためのインタビューシート。
	<a href="#">M110-202</a>	OUT(SCORレベル2プロセス評価チェックリスト)	1	11B-47	サプライチェーンのレベル2プロセスの成熟度を評価し、原因の候補としてのSCM課題を抽出するためのチェックリスト。
	<a href="#">M110-401</a>	OUT(業務機能別主要課題一覧表(工場系))	1	11B-48	工場系業務課題を整理するためのシート。項目は、該当レベル2プロセス、課題、課題内容、現状と根本原因仮説、悪影響など。

緑色のものは、PP資料のNoteに詳細説明あり

ワークパッケージ	説明・技法・ツール・リファレンス・事例	枚	ソース	Note	内容説明
	M110-403 事例(業務機能別主要課題(工場系))	1	20-28		工場系主要課題の事例。
112. 営業、管理系業務課題の抽出	M112-001 説明(営業・管理系業務課題の抽出の主要アクティビティ)	1	11B-50		営業系業務課題や管理系業務課題をインタビューして、業務課題を抽出するためのアクティビティを説明したもの。
	M112-104 事例(受注・出荷業務インタビュー(受注・出荷))	1	事例X1		顧客仕様で設計・製造・出荷する特注品(ETO品)に関する受注・出荷業務に関して業務課題質問シートによって質問した際のメモ。この例では、2人のメモが記載されている。
	M112-301 OUT(業務機能別主要課題一覧表(営業系))	1	11B-55		営業系業務課題を整理するためのシート。項目は、該当レベル2プロセス、課題、課題内容、現状と根本原因仮説、悪影響など。
	M112-302 OUT(業務機能別主要課題一覧表(管理系))	1	11B-56		管理系業務課題を整理するためのシート。項目は、該当レベル2プロセス、課題、課題内容、現状と根本原因仮説、悪影響など。
	M112-303 技法(業務機能別主要課題一覧表の作成)	1	11B-57		業務課題インタビュー結果から、主要課題一覧表の作成方法を説明したもの。
	M112-306 事例(業務機能別主要課題(営業系))	1	事例X1		営業系業務課題一覧表について、その悪影響(対工場)と悪影響(対顧客)を評価して、主要な課題に絞り込んだ例(赤枠)。
115. 複数の機能部門にまたがる業務課題の抽出	M115-001 説明(SCM系課題の抽出方法)	1	11B-58		SCM系課題の抽出のための一連のステップを説明。
	M115-011 事例(地理マップ)	1			プレーヤ間のモノと情報の流れについて、レベル1プロセスのつながりである地理マップとして描いた事例。
	M115-012 事例(スレッドダイアグラム)	1	11B-59		プレーヤ間のモノと情報の流れについて、レベル2プロセスのつながりであるスレッドダイアグラムとして描いた事例。
	M115-101 OUT(SCM系主要課題一覧表)	1			SCM系業務課題を整理するためのシート。項目は、該当レベル2プロセス、課題、課題内容、現状と根本原因仮説、悪影響など。
	M115-201 事例(Planチェックリストから業務機能別主要課題(SCM系)の抽出)	1	11B-60		計画系プロセスの診断結果の事例。
	M115-303 事例(業務機能別主要課題(SCM系))	1	20-33		生販在物流のSCM系業務課題を抽出した事例。
116. 業務要求と業務課題の個別業務機能ドメインへの集約	M116-000 説明(業務改革モデル定義の主要アクティビティ)	1	11B-62	1	業務要求と業務課題を合わせた業務改革モデルの定義のための主要なアクティビティを説明したもの。
	M116-001 説明(業務機能別課題集約表(業務改革モデル))	1	11B-63	1	業務機能別課題集約表を利用して、事業部別の業務要求と主要業務課題を合体させて、レベル2業務機能プロセスに集約して、業務改革モデルを定義する。
	M116-011 OUT(業務機能別課題集約表(白紙))	1	11B-64		事業部別の業務要求と主要業務課題をレベル2業務機能プロセスに集約させるためのシート。
	M116-012 事例(業務機能別課題集約表)	1	11B-65	1	事例Aにおいて、事業戦略の構造化、および業務課題の引き出しによって、定義された業務機能別課題集約表(業務改革モデル)をしめたもの。
160. プロセス改革施策の立案	M160-001 説明(プロセス改革改革区分とは)	1	11B-67	1	プロセス改革区分とは、ビジネスプロセスを構成する様々なリソースをグループ化して区分したもの。通常は、①設備等、②組織、③業務ルール、④業務プロセス、⑤人、⑥情報と情報システム、この6区分。設備を省略して5区分とする場合がある。
	M160-002 説明(業務改革実現モデルとは)	1	11B-68		業務改革実現モデルは、業務改革モデルについて、業務機能とリソースとの関係をプロセス改革区分別に記述したもの。
	M160-003 技法(課題別業務改革施策の検討)	1	11B-69		主要レベル2業務課題の根本原因を分析して、解決のためのプロセス改革施策を検討して、プロセス改革区分別のプロセス改革テーマに分解する。



緑色のものは、PP資料のNoteに詳細説明あり

ワークパッケージ	説明・技法・ツール・リファレンス・事例	枚	ソース	Note	内容説明
	<a href="#">M160-004</a> 説明(業務改革モデルと業務改革実現モデルの例)	1	11B-70		業務改革モデルと業務改革実現モデルの相違を例によって説明したものの。同じレベル2プロセスに位置するが、前者は目的としての事業戦略からの業務機能の切り口、後者は手段としてハイレベルのビジネスプロセスモデルに構造化するための切り口の違いがある。
	<a href="#">M160-022</a> 事例(課題の経営PDCAマッピング)	1	20-22		ERPを導入したのになぜ経営的効果が出ないのかについて、その根本原因を経営のPDCAマトリクスで図示した事例。
	<a href="#">M160-103</a> ツール(課題別解決策検討シート)	1			課題別プロセス改革施策の検討のためのシート。課題と原因のレベル2プロセス番号、重要度、直ぐに着手可能な課題解決策、システム開発が伴う課題解決策、新組織が必要な課題解決策などの項目を持つ。
	<a href="#">M160-201</a> OUT(プロセス改革施策立案シート)	1	11B-72		検討した課題解決策からプロセス改革施策を立案するためのシート。
	<a href="#">M160-301</a> 事例(SCM系プロセス改革施策)	1	20-35		SCM系課題についてのプロセス改革施策の事例。一部はマスクしてある。
163. プロセス改革ロードマップの立案	<a href="#">M163-201</a> 技法(業務改革ロードマップの立案と選定)	1	11B-73		業務改革ロードマップの立案と選定の際に、考慮すべき観点をしめたもの。
	<a href="#">M163-202</a> 事例(業務改革ロードマップ)	1	11B-74		複数ステージ(年度)に渡って、設備・組織、業務ルール、業務プロセス、人、情報システムのプロセス改革区分別に作成した業務改革ロードマップの事例。
	<a href="#">M163-301</a> 事例(業務改革施策イメージ)	1	20-37		業務改革施策のイメージとして、SCMセンターを新設する際のイメージ。組織、業務ルール、業務プロセス、人、情報システムの観点で作成。
165. プロセス改革の効果の算出	<a href="#">M165-201</a> 技法(代表的メトリクスと定量的効果の算出方法)	2	11B-75		需要予測精度、計画リードタイム、確約納期遵守率、調達リードタイム、製造リードタイム、出荷リードタイムなどの算出方法。
	<a href="#">M165-202</a> 事例(製品在庫削減の効果)	1	11B-77		計画サイクルと計画リードタイムの改善による製品在庫削減の定量的効果を金額換算して算出した事例。
170.IT動向の本	<a href="#">M170-101</a> 事例(RFIへの記載項目)	1	11B-78		RFIへの記載項目と目的、詳細についての事例。
171.情報システム資産の現状評価	<a href="#">M171-201</a> OUT(システムマップ)	1	11B-79		システムマップのレイアウト例。アプリケーション名、関連するビジネスプロセス、アプリケーション詳細(パッケージ名または自社開発のシステム名)、データベース、オペレーティングシステム、ハードウェア・プラットフォーム、施設
185.IT戦略の策定	<a href="#">M185-011</a> 技法(IT投資方針の4つのパターン)	1	11B-80		ビジネス面からの優先順位、およびIT利用技術とアプリ面からの優先順位を考慮して、4つパターンのIT投資方針を決定する方法。
	<a href="#">M185-201</a> 事例(グループ別IT戦略)	1	11B-81		システムグループ別に、業務要求と業務課題、システム課題、および利用可能なITや他社事例から、ステージ別のIT戦略を策定した例。
188.IT戦略の費用対効果の算出とIT戦略構想書の作成	<a href="#">M188-001</a> 事例(IT戦略構想書の目次)	1	11B-82		IT戦略構想書の目次例。IT構想の目的、全体IT構想、個別システム構想を含む。
190.プロセス改革構想書の取りまとめと報	<a href="#">M190-001</a> 事例(業務改革構想書の目次)	1	11B-84		プロセス改革構想書の目次例。3つの章(IT戦略構想を除く)、および次フェーズのプロジェクト計画を含む。
195.プロジェクト計画の作成	<a href="#">M195-011</a> 事例(フェーズIIのプロジェクト計画書目次)	1	11B-85		章立の例をしめたもの。①プロセス改革の目的、②設計後のプロセス、③プロジェクト目標、④成果物とその作成方針、⑤フェーズIIのフェーズ別詳細プロジェクト計画、⑥前提条件と制約条件
合計		98		28	

緑色のものは、PP資料のNoteに詳細説明あり

ワークパッケージ	説明・技法・ツール・リファレンス・事例	枚	ソース	Note	内容説明	
200. フェーズⅡ概要	<a href="#">M200-002</a>	説明(フェーズⅡの概要)	1	12-3	1	フェーズⅡの主なインプットは、業務改革要求(レベル2)、プロセス改革構想書、プロジェクト計画書、アウトプットは、プロセス改革要求(レベル3)、レベル3プロセス(現状、設計後)、プロセス改革企画書、プログラム計画書、プロジェクト計画書など。プロセス改革要求は、BABOKでいうステークホルダ要求に該当する。そして、主要なWBSを説明。
	<a href="#">M200-003</a>	説明(フェーズⅡの成果物と要素成果物)	2	12-4,5		当フェーズにおける成果物と要素成果物、その内容を説明。
	<a href="#">M200-004</a>	説明(フェーズⅡのバリエーション)	1	12-6		当フェーズのバリエーション別に、必須またはオプションとなるWPをピックアップ、大概の期間と工数例を記載。
	<a href="#">M200-005</a>	説明(フェーズⅡ:プロセス参照モデルがない場合の制限事項)	1	12-7		プロセス参照モデルが存在する場合、業務機能体系表だけが存在する場合、業務機能体系表もない場合、この3つのケースについての制限事項をリストアップしたもの。
	<a href="#">M200-006</a>	説明(フェーズⅡのWBSの関係)	1	12-8		レベル2プロセス分析・設計、レベル3プロセス分析・設計、プロセス改革要求(レベル3)の抽出、プロセス改革ロードマップやその効果などについて、事業部やその中のビジネスユニットごとに、別々に行って最後に集約する場合があることの説明。
220. レベル2プロセス分析	<a href="#">M220-000</a>	説明(レベル2プロセス分析・設計のステップ)	1	12-17	1	レベル2プロセス分析と設計における各ステップについて、レベル2プロセス分析・設計シートの主要な各欄との関係によって説明したもの。
	<a href="#">M220-001</a>	説明(レベル2プロセス分析の主要アクティビティ)	1	12-18	1	レベル2プロセス分析では、業務要求のCSFの最大障害および業務課題の根本原因を明確にして、それらを集約・グループ化、優先順位付けする。レベル2プロセス分析WBSの主要なアクティビティを説明したもの。
	<a href="#">M220-002</a>	レベル2プロセス分析の結果	1	12-19		業務要求や業務課題からのアウトプットに対して、第3因子になりうる業務課題を抽出・追加、業務要求のCSFや業務課題の根本原因を特定した、重要度や優先順位を付けて絞り込んだものが結果となる。
	<a href="#">M220-012</a>	事例(レベル2プロセス図)	6		2	レベル2プロセス図の例を説明したもの。先頭ページに各々の例の説明あり。例3・例4については、Note欄に詳細説明あり。
	<a href="#">M220-101</a>	説明(レベル2の問題・課題の引き出し)	2	12-21,22		ワークショップ等によって引き出した問題・課題は、レベル2プロセスとレベル3プロセスに分類し、さらに結果系、原因系、測定系、解決策系に区分しておく。
	<a href="#">M220-102</a>	事例(構想・企画フェーズにおける課題抽出の失敗)	1	20-	1	コンサル会社がある製造業の業務課題の抽出のために、ヒアリングを行い、その結果をKJ法で取りまとめた大失敗例。①ヒアリングによる自由回答のため、ヨコの調査・分析が不十分、抜け、②タデの問題・課題の根本原因が特定されていない、③結果としてレベル4の詳細な対象に時間を費やしてしまう
	<a href="#">M220-111</a>	OUT(レベル2プロセス分析(・設計)シート)	1	12-23	1	業務要求や業務課題に対して、レベル2プロセス分析するためのシートのレイアウト。分析欄(根本原因、まとめ付加)だけでなく、設計欄を保持している。レベル2プロセス分析では、設計欄は隠しておく。
	<a href="#">M220-112</a>	技法(レベル2プロセス分析(・設計)シートの準備)	1	12-24		業務要求と業務課題のそれぞれについて、レベル2プロセス分析(・設計)シートへの転記方法を説明したもの。
	<a href="#">M220-113</a>	事例(レベル2プロセス分析(・設計)シート)	1	12-25		レベル2プロセス分析(・設計)シートの記入例。
	<a href="#">M220-121</a>	説明(レベル2プロセス分析手法)	1	12-26		レベル2プロセス分析における各アプローチの特徴、使用するリファレンスやツール、サブライチェーンに限定するかどうかを説明したもの。
	<a href="#">M220-201</a>	技法(SCM改革アプローチ)	1	12-27		SCネットワーク分析チェックリストを利用した診断を行って、モノと情報の流れに潜んでいるレベル2に位置する業務課題を抽出する方法。
	<a href="#">M220-301</a>	技法(機能・課題展開アプローチ)	1	12-28		機能・課題がマッピングされたレベル2プロセスについて、関連するプロセスも含めて分析することで、根本的に解決すべき課題を特定する方法。
	<a href="#">M220-304</a>	事例(機能・課題展開アプローチ)	1	20-45		機能・課題展開アプローチによって、P3(生産計画)に問題が発生しているが、その根本原因は上流のP1(需給計画)プロセスにあることを特定した事例。

緑色のものは、PP資料のNoteに詳細説明あり

ワークパッケージ	説明・技法・ツール・リファレンス・事例	枚	ソース	Note	内容説明	
	<a href="#">M220-401</a>	技法(レベル2仮説-検証アプローチ)	1	12-29	1	問題・課題の原因となっているレベル2プロセスを仮説して、それが問題・課題の根本原因となっていることを検証する方法。
	<a href="#">M220-402</a>	事例(レベル2仮説-検証アプローチ)	1	12-30	1	仮説-検証アプローチによって、問題・課題の根本原因を特定した例。
	<a href="#">M220-403</a>	REF(SCOR分析・設計実践ガイド)	1			ヤマハ(株)が寄贈し、SCC日本支部(現VCPC)に権利。SCORのレベル2/レベル3プロセスの手法、特に、仮説-検証アプローチを解説したもの。
	<a href="#">M220-501</a>	技法(レベル2メトリクスアプローチ)	1	12-31		事業目標を構造化したSCORレベル2メトリクスに対応するレベル2プロセスを特定して、そのパフォーマンス向上のための課題を抽出する方法。
	<a href="#">M220-701</a>	技法(レベル2プロセス分析(根本原因の検討))	1	12-32		レベル2プロセス分析において、業務要求のCSF、および業務課題の根本原因の検討のポイントを説明したもの。
	<a href="#">M220-702</a>	事例(レベル2プロセス分析・設計シート(根本原因))	1	12-33		レベル2プロセス分析として、業務要求のCSFまたは最大障害、業務課題の根本原因を検討した例。
	<a href="#">M220-801</a>	技法(レベル2プロセス分析のまとめ)	1	12-34	1	レベル2プロセス分析のまとめとして、同一の根本原因である課題の集約、課題の発生と原因となるレベル2プロセス名・コード、重要度や優先順位の設定を行い、レベル2プロセス分析・設計シートに記入。
	<a href="#">M220-802</a>	事例(レベル2プロセス分析(・設計)シート(付加情報))	1	12-35		レベル2プロセス分析シート(レベル2プロセス名、業務要求/業務課題、現状と原因仮説、CSF/根本原因、分析用付加情報)の例。
	<a href="#">M220-814</a>	事例(TOC思考プロセス、レベル2現状分析ツリー)	2	12-36		レベル2の業務要求や業務課題から、TOC現状分析ツリーを描いた例。赤枠が大きくこれらの根本原因、すなわちボトルネック。大きくは、これを解決すれば最上段の黄色の業務課題が解決できることを示している。レベル2の大きな問題・課題に絞るとA4の1-2枚に納めて、全体を考えやすくなることができる。
	<a href="#">M220-901</a>	事例(レベル2業務課題付きレベル2プロセス図)	1	12-37	1	レベル2プロセス分析で抽出した業務課題の根本原因について、現状のレベル2プロセス図(M220-012)の上にマッピングした例。これによって、ステークホルダーへ報告して、合意形成と承認を得る。
225. レベル2プロセス設計	<a href="#">M225-001</a>	説明(レベル2プロセス設計の主要アクティビティ)	1	12-39	1	レベル2プロセス分析・設計シートの根本原因は、業務要求・業務課題のレベル2プロセスとは異なることが多々ある。根本原因の解決策を検討・レビューした業務改革実現要求をレベル2プロセス単位に集約したものが、レベル2プロセス設計のアウトプットとなる。この全体がプロセス改革モデルとなる。
	<a href="#">M225-002</a>	説明(レベル2プロセス設計の集約)	1	12-40	1	レベル2プロセス設計では、業務要求/業務課題ごとにその根本原因から解決策を設計するので、同一レベル2プロセスにおいて複数の解決策が別々に設計されることがある。それらをレベル2プロセスで並べ直して集約したものが業務改革実現モデル(レベル2)となり、次のレベル3プロセス分析のインプットとなる。
	<a href="#">M225-011</a>	OUT(レベル2プロセス(分析・)設計用シート)	1	12-41	1	レベル2プロセス分析・設計シートの分析欄に、レベル2プロセス分析の結果が記載されている。これに、レベル2プロセス設計した情報を追加するために、隠されていた設計欄を表示する。
	<a href="#">M225-012</a>	技法(レベル2プロセス設計(根本原因の解決策))	2	12-42,43		レベル2プロセス設計は、業務要求のCSFの実現や業務課題の根本原因の解決を設計すること、および、解決策の設計ポイントを説明。したがって、問題・課題が発生しているプロセスとは別のプロセスに解決策が設計されることがある。
	<a href="#">M225-013</a>	事例(レベル2プロセス設計結果)	1	12-44		レベル2プロセス分析(・設計)シートの例。220-033の例に対してレベル2プロセス設計したもの。
	<a href="#">M225-301</a>	技法(解決策のレベル2プロセス単位の集約)	2	12-46,47		業務要求や業務課題ごとに設計した解決策について、同一レベル2プロセス内での同一性・類似性によって集約する際のポイントを説明。
	<a href="#">M225-901</a>	事例(レベル2プロセス分析・設計の結果)	1	12-48	1	事例Aにおいて、レベル2プロセス分析・設計の結果として、受注業務への業務改革実現要求を説明したもの。
	<a href="#">M225-911</a>	技法(レベル3プロセス分析の要・不要の判断)		12-48		レベル3プロセス数は約5-10倍となり、分析・設計に時間を要するので、レベル2プロセス設計の結果について、レベル3プロセス分析へ進むものをできるだけ絞り込む。
230. レベル3プロセス設計	<a href="#">M230-000</a>	説明(レベル3プロセス分析・設計のステップ)	1	12-51	1	レベル3プロセス分析と設計における各ステップについて、レベル3プロセス分析・設計シートの主要な各欄との関係によって説明したもの。



緑色のものは、PP資料のNoteに詳細説明あり

ワークパッケージ	説明・技法・ツール・リファレンス・事例	枚	ソース	Note	内容説明	
ス分析	M230-001	説明(レベル3プロセス分析の主要アクティビティ)	1	12-52	1	レベル3プロセス分析では、レベル2設計された業務改革実現要求をレベル3プロセスへ要素分解し、さらに他の技法も利用して、もれなくレベル3プロセス改革課題を抽出する。レベル3プロセス分析WBSの主要なアクティビティを説明。
	M230-002	説明(レベル2プロセス設計からレベル3プロセス改革課題へ要素分解)	1	12-53	1	レベル3プロセス分析では、レベル2プロセス設計としての業務改革実現要求を実現するために、これを複数のレベル3プロセス上のプロセス改革課題に要素分解する。また、レベル3に位置する他のプロセス改革課題と合わせて、この両者をレベル3プロセス分析・設計シートに転記する。
	M230-022	事例(レベル3プロセス図)	6		3	レベル3プロセス図の例を説明したもの。先頭ページに各々の例の説明あり。例1・例2・例3については、Note欄に詳細説明あり。
	M230-101	説明(レベル3の問題・課題の引き出し)	1	12-55		ワークショップ等によってレベル3プロセスに関する問題・課題を引き出し、結果系、原因系、測定系、解決策系に区分しておく。レベル4以下の問題・課題は次のフェーズにおいて利用する。
	M230-111	OUT(レベル3プロセス分析(・設計)シート)	1	12-56	1	レベル2プロセス設計結果やレベル3プロセス改革課題から、プロセス改革要求を定義するためのレベル3プロセス分析シートの構造をしめたもの。分析欄だけでなくプロセス改革区分別の設計欄を保持している。レベル3プロセス分析の間は設計欄は隠しておく。
	M230-112	技法(レベル2プロセス設計の要素分解)	2	12-57,58	2	レベル2プロセス設計の結果の全てをレベル3プロセスに要素分解する際の方法とポイントを説明したもの。
	M230-113	事例(レベル2プロセス分析(・設計)シート)	1	12-59		レベル2プロセス分析(・設計)シートの例。225-012のレベル2プロセス設計例をレベル3に要素分解したもの。
	M230-114	事例(レベル2プロセス設計結果の構造化)	1	12-60	1	事例Aにおいて、レベル2プロセス設計の結果(業務改革実現要求)について、対応するレベル3プロセスへの要素分解を説明したもの。
	M230-121	説明(レベル3プロセス分析手法)	1	12-61		レベル3プロセス分析における各アプローチの特徴、使用するリファレンスやツール、サプライチェーンに限定するかどうかを説明したもの。
	M230-201	技法(レベル3課題分析・分類アプローチ)	1	12-62		レベル2プロセス上のプロセス改革要求を実現するため、原因となるレベル3プロセスのプロセス構成要素(プロセス機能、インプット、アウトプット、業務ルール、担当組織など)を順番に分析していく方法。
	M230-202	事例(課題分析・分類アプローチ)	1	20-47	1	P1需給計画の問題の原因について課題分析・分類によって、その配下の4つのレベル3プロセス、および7つの課題に分類した事例。
	M230-301	技法(機能分解アプローチ)	1	12-63		業務改革実現要求(レベル2)について、この実現を機能分解できるかどうか、レベル3プロセスを順番に検討していく方法。
	M230-401	技法(レベル3メトリクスアプローチ)	1	12-64		事業目標を構造化したSCORレベル3メトリクスに対応するレベル3プロセスを特定して、そのパフォーマンス向上のための課題を抽出する方法。
	235. レベル3プロセス設計	M235-001	説明(レベル3プロセス設計の主要アクティビティ)	1	12-65	1
M235-002		説明(レベル3プロセス分析からレベル3プロセス設計へ)	1	12-66	1	レベル3プロセス分析では、①業務改革実現要求(レベル2)を要素分解し、また②プロセス改革課題(レベル3)をレベル3プロセスに対応付けた。レベル3プロセス設計では、これをプロセス改革区分別のプロセス改革案として検討し、さらに整合性が確保されたプロセス改革要求(レベル3)として設計する。
M235-011		OUT(レベル3プロセス(分析・)設計シート)	1	12-67	1	レベル2プロセス単位に別々に作成されたレベル3プロセス(分析)・設計シートでは、隠されていた設計欄を表示して利用する。
M235-012		技法(レベル3プロセス改革案の検討)	2	12-68,69		レベル3プロセス上にマッピングしたプロセス改革課題について、これを実現するために、プロセス改革区分ごとに何が必要か、プロセス改革案を検討していく際の方法と改革案の検討ポイントを説明したもの。
M235-013		事例(レベル3プロセス改革案の検討)	1	12-70		レベル3プロセス改革案の検討の例。
M235-051		技法(プロセス改革案から改革要求へ)	1	12-71		レベル3プロセス設計によってプロセス改革要求を設計する際の留意点を説明したもの。

緑色のものは、PP資料のNoteに詳細説明あり

ワークパッケージ	説明・技法・ツール・リファレンス・事例	枚	ソース	Note	内容説明
	<a href="#">M235-052</a> 事例(レベル3プロセス改革要求)	1	12-72	1	事例Aのレベル3プロセス設計シートを解説したもの。記述例は、・レベル2プロセス=sD3(現在名は4.4C)・レベル3プロセス=sD3.1、sD3.2、sD3.3(現在名は4.4C.01、4.4C.02、4.4C.03)
	<a href="#">M235-111</a> 技法(TOC思考プロセス、レベル3未来実現ツリー)	1	12-73		上段に「目標やあるべき姿」を置いて、レベル3プロセス設計の結果である「改革要求策」を因果関係に従ってツリーとして図示する。
	<a href="#">M235-201</a> 事例(プロセス改革後のレベル3プロセス図)	1	12-74	1	事例Aにおいて、プロセス改革によって、現状で欠落しているプロセスを設計して追加したレベル3プロセス図の例。この例では、プロセス改革要求を該当するプロセスに吹き出して表記してある。
	<a href="#">M235-301</a> OUT(業務機能体系表上のプロセス改革要求)	1	12-75		業務機能体系表のレベル3プロセスごとに、プロセス改革区分別にプロセス改革要求を記入するためのシート。
	<a href="#">M235-302</a> 説明(プロセス改革要求の抽出)	1	12-76		レベル2プロセス分析・設計、レベル3プロセス分析・設計によって、プロセス改革要求の抽出までのイメージ。プロセス改革要求のうち、情報と情報システムに関するものがビジネス要求となる。
	<a href="#">M235-303</a> 事例(SCM改革におけるプロセス改革要求)	1	12-77		SCM成功事例の中で、実際にどのようなプロセス改革要求とビジネス要求が定義され、実現されたかをまとめたもの。
	<a href="#">M235-304</a> 事例(プロセス改革要求)	1	事例X1		プロセス改革要求の定義例。
	<a href="#">M235-305</a> 事例(ITへのビジネス要求)	1	12-78		調達関係のレベル2プロセス設計をレベル3プロセス上のITへのビジネス要求として構造化した例。
	<a href="#">M235-401</a> OUT(プロセス対応マトリクス)	1	12-79		事業部門とビジネスユニット名ごとに、そこで実施されているプロセス一覧と該当組織をプロセス階層レベルごとに対応付けたもの。トップダウンアプローチでビジネスプロセスモデリングを行う際の対象を特定するために使用する。ここは、プロセス対応マトリクスのレベル2、レベル3プロセスの記述方法を説明したもの。
	<a href="#">M235-701</a> 事例(プロセス改革後の組織の設計)	1	12-80	1	事例Aにおける、レベル3プロセス設計、すなわちプロセス改革後の新たな組織と人の設計の事例。
	<a href="#">M235-901</a> 事例(レベル3プロセス分析・設計の結果)	1	12-81	1	事例Aにおいて、レベル3プロセス分析・設計の結果として、受注業務へのプロセス改革要求を説明したもの。
263. プロセス改革ロードマップの立案	<a href="#">M263-101</a> 技法(プロセス改革要求と組織の成熟度)	1	12-85		プロセス改革要求について、プレーヤ内やプレーヤ間にどのようにまたがるかによって、その実現の難易度は組織の成熟度レベルの影響を大きく受ける。
	<a href="#">M263-201</a> 技法(プロセス改革ロードマップの作成と選定)	1	12-86		プロセス改革要求は、プロセス改革区分によってその難易度において評価すべき内容が異なる。さらに、その前提条件や制約条件を検討して複数のロードマップ案を作成して選定する。
	<a href="#">M263-202</a> 事例(経営管理機能強化へのプロセス改革ロードマップ)	1	12-87		経営の戦術面における欠落したプロセスを新設して強化することについての、3カ年のロードマップ例。
	<a href="#">M263-203</a> 説明(戦術・管理に関する課題の解決の考え方)	1	12-88		「戦術・管理」プロセスについての4つの特徴と課題解決への考え方をしめたもの。
	<a href="#">M263-204</a> 事例(SCM面からのロードマップ)	2	12-89,90		レベル3プロセス分析からのレベル3プロセス設計において、プロセスの集中・集約化と相互調整を実現するための3段階のステップ例。
265. プロセス改革効果の算出	<a href="#">M265-002</a> 事例(HPとCompaqの合併プロジェクト)	1			2001年、ヒューレットパッカードとコンパクの合併に際して、6カ月間でサプライチェーンを統合し、その後に計画立案システムを標準化した事例の要約。詳細はSCC-Jのライブラリにある。
271. 情報システム資産の現	<a href="#">M271-301</a> 事例(業務シナリオの共通化)	1	20-62		プロセス参照モデル(レベル3)を共通言語として利用し、7つのビジネスユニットに200以上のビジネスプロセスフローを洗い出して、11種類の共通ビジネスパターンに整理できた。日本企業の米国法人の例。
280. プログラム計画の作成	<a href="#">M280-001</a> 説明(全体計画(プログラム、個別プロジェクト))	1	12-96		上位プロセス設計によって導いたプロセス改革要求を段階的に実現するためのプログラム計画と個別プロジェクト計画の全体ステップをしめたもの。
	<a href="#">M280-021</a> 説明(新たな組織・業務プロセスの構築)	1	12-100		新たな組織・業務プロセス構築のために、業務機能と組織の設計、レベル3~4のプロセス設計、情報システム構築のステップを説明したもの。
	<a href="#">M280-022</a> 事例(SCM組織の設計例(PSI計画))	1	12-101		組織のメタモデルの設計例。SCMのPSI計画に関連する6つの組織のミッション・目的、責任、権限、組織機能、業績評価指標をしめた。



緑色のものは、PP資料のNoteに詳細説明あり

ワークパッケージ	説明・技法・ツール・リファレンス・事例	枚	ソース	Note	内容説明
	<a href="#">M280-101</a> 事例(プログラム計画書構成)		12-102		プロセス改革のためのプログラム計画書の構成例。
281.プログラムマネジメント					
282.プロジェクト計画の作成	<a href="#">M282-101</a> 事例(フェーズⅢのプロジェクト計画書目次)		12-103		次フェーズ(プロセス中位設計によるプロセス改革計画)のためのプロジェクト計画の目次例。
283.プロジェクトマネジメント		1			
285.IT企画の策定	<a href="#">M285-001</a> 事例(IT企画書の目次)	1	12-104		複数のシステムの企画を含むIT企画書の目次例。IT企画の目的、全体IT企画、個別システム企画の章から構成される。
	<a href="#">M285-002</a> 技法(IT企画書の項目の説明)	1			IT企画書に含まれるIT企画全体、個別IT企画のプロジェクト憲章、個別IT計画の各項目を説明、例示したもの。
	<a href="#">M285-011</a> 技法(ERP導入のロードマップの考え方)	2	12-106,107		情報システムについて、集中、相互調整(統合)、分散、分権の4つのパターンから、ERP導入のロードマップの考え方をしめたもの。
	<a href="#">M285-012</a> 技法(ERPの適用範囲の考え方)	1	12-108		ERPの適用範囲について、集中、相互調整(統合)、分散、分権の4つのパターンからの考え方をしめたもの。
	<a href="#">M285-013</a> 事例(生産情報システムの階層化)	1			生産情報システムについて、ISO CIM 階層モデルに沿って、集中、相互調整(統合)、分散、分権の4つのパターンから、SCM/ERP、工場単位の製造管理(MES)、FAなどに階層的に役割を分割した事例。
	<a href="#">M285-021</a> 技法(現状システム課題の抽出方法)	1			現状システム課題を利用部門における業務プロセス、IT部門における業務プロセス(CobiT)から抽出する方法を説明。IT資源(ハード・基盤系)、IT資源(アプリケーション)、IT資源(データ)、IT資源(開発、運用体制)、ITサービスの観点から。
290.プロセス改革企画書の取りまとめ	<a href="#">M290-001</a> 事例(プロセス改革企画書目次)	1	12-109		プロセス改革企画書の目次の例。
合計		103		32	

緑色のものは、PP資料のNoteに詳細説明あり

ワークパッケージ	説明・技法・ツール・リファレンス・事例	枚	ソース	Note	内容説明	
300. フェーズⅢ概要						
要	<a href="#">M300-002</a>	説明(フェーズⅢの概要)	1	13-3	1	当フェーズへの主なインプット、ワークパッケージ(WP)、アウトプットを説明。
	<a href="#">M300-003</a>	説明(フェーズⅢの成果物と要素成果物)	2	13-4,5		当フェーズにおける成果物と要素成果物、その内容を説明。
	<a href="#">M300-004</a>	説明(フェーズⅢのバリエーション)	1	13-6		当フェーズのバリエーション別に、必須またはオプションとなるWPをピックアップ、大概の期間と工数例を記載。
	<a href="#">M300-005</a>	説明(フェーズⅢ:プロセス参照モデルがない場合の制限事項)	1	13-7		プロセス参照モデルが存在する場合、業務機能体系表だけが存在する場合、業務機能体系表もない場合、この3つのケースについての制限事項をリストアップしたもの。
	<a href="#">M300-006</a>	説明(レベル3からレベル4プロセスへの構造化の考え方)	1	13-8	1	レベル3プロセスからレベル4プロセスへ設計する考え方を説明したもの。①現状のレベル3プロセスをレベル4に構造化、②設計されたレベル3プロセスをレベル4に構造化、③プロセスの標準化、④リスクコントロールの(再)設計、⑤共通ビジネスサービス化の検討と設計、⑥概要レベルITユーザ要求定義。
	<a href="#">M300-007</a>	説明(レベル4プロセス分析・設計のステップ)	3	13-9,10,11	3	フェーズⅢにおけるレベル4のプロセスモデリングのステップ、作成する要素成果物を説明したもの。①現状のレベル4プロセスの調査・記述、②現状のレベル4プロセス課題の抽出、③レベル3プロセス改革要求の構造化、④レベル4プロセス設計、⑤プロセス標準化、⑥リスクコントロール設計、⑦共通ビジネスサービス設計、⑧ユーザ要求定義
301. スコープの確認と設定	<a href="#">M301-041</a>	技法(SOXトッパダウアプローチ)	1			PCAOBは2005年5月、SECは2006年に、それまで濫用されていたボトムアップアプローチを警鐘して、トッパダウアプローチとリスクベースアプローチを提唱した。
	<a href="#">M301-101</a>	OUT(プロセス対応マトリクス)	1			プロセス対応マトリクスのためのExcelシート。レベル2とレベル3と、レベル3とレベル4と、レベル4とレベル5と、各々、プロセスと該当組織を対応付ける。
	<a href="#">M301-102</a>	技法(プロセス対応マトリクス(レベル4まで))	1	13-12		事業部門とビジネスユニット名ごとに、そこで実施されているプロセス一覧と該当組織をプロセス階層レベルごとに対応付けたもの。トッパダウアプローチでビジネスプロセスモデリングを行う際の対象を特定するために使用する。ここは、プロセス対応マトリクスのレベル4プロセスの記述方法を説明したもの。
302. 計画フェーズの準備						
310. 現状のレベル4プロセスの調査・記述	<a href="#">M310-002</a>	説明(現状プロセスの調査・記述の主要アクティビティ)	1	13-13	1	現状プロセス調査・記述の主要なアクティビティを説明したもの。
	<a href="#">M310-003</a>	説明(現状プロセスの調査・記述の範囲)	1	13-14		現状プロセスの調査・記述の3種類の範囲を説明したもの。①人間系、IT系プロセスの全てを詳細に、②人間系は概略、IT系プロセスは詳細に、③IT系プロセスだけを詳細に(あまり推奨しない)
	<a href="#">M310-101</a>	技法(既存ドキュメントを活用した現状レベル4プロセスの調査・記述)	1	13-15	1	現状プロセスの調査・記述の手法として、目的別ドキュメント(内部統制、ISO、情報システムなど)や古い調査済みドキュメントをプロセス参照モデルにマッピングする方法がある。この情報から、あるいはこれら複数の情報をマッピング、不明点を明確にして、業務プロセス概要を調査・記述すれば、所要工数を削減できる。
	<a href="#">M310-102</a>	事例(既存ドキュメントを活用した現状レベル4プロセスの調査・記述)	1	13-16	1	現状プロセスの調査・記述の手法として、目的別ドキュメントや古いドキュメントをプロセス参照モデルにマッピングする方法の例を説明したもの。
	<a href="#">M310-201</a>	事例(プロセス参照モデルを利用したプロセスフローの調査・記述)	1	13-18	1	ユーザを集めたワークショップにて、プロジェクトを利用して、プロセスフローを調査・確認した例。
	<a href="#">M310-202</a>	事例(レベル4プロセス図)	6		2	4種類のレベル4プロセス図の例を説明したもの。先頭ページに各々の例の説明あり。例3・例4については、Note欄に詳細説明あり。
	<a href="#">M310-211</a>	事例(プロセス参照モデルを利用したプロセス構成要素の調査・記述)	1	13-22	1	ユーザを集めたワークショップにて、プロジェクトを利用して、プロセス機能を調査・確認して、プロセス詳細記述書に記録した例。

緑色のものは、PP資料のNoteに詳細説明あり

ワークパッケージ	説明・技法・ツール・リファレンス・事例	枚	ソース	Note	内容説明	
	<a href="#">M310-502</a>	事例(業務フロー記述の共通化(IT系プロセス))	1	20-71		業務フロー(IT系プロセスだけ)を基本共通、バリエーション、オプションに分類して、44個の業務フローを12個に整理した事例。
	<a href="#">M310-503A</a>	事例(業務シナリオの共通化記述A)	6	事例A1		プロセス参照モデルを共通プロセスとして、この上に各業務シナリオを記述した例。 動脈流:①顧客の要求の引き出し・確認、②提案仕様書の作成、③提案、契約交渉、受注、製作指示、④開発レビュー、設計・試作の指示⑤設計・試作、デザインレビュー、出荷・生産準備
	<a href="#">M310-503B</a>	事例(業務シナリオの共通化記述B)	5	事例A2		プロセス参照モデルを共通プロセスとして、この上に各業務シナリオを記述した例。 静脈流:①顧客サービス、②通常返品、③修理受付・引取、見積、受注・修理・出荷、④クレーム受付(・代品出荷)、引取・調査、報告
	<a href="#">M310-901</a>	説明(現状の業務プロセスを記述した結果)	1	13-26		レベル4プロセスの分析・設計として、まず、現状プロセスを調査した結果をプロセス詳細記述書のプロセス構成要素ごとに記述する。
	<a href="#">M310-902</a>	業務フロー記述における問題点(例)	1	13-27		ERP導入時のビジネス設計時の業務フローを評価した例において、3つの代表的な問題点、これによる悪影響、これを引き起こした共通した原因について説明したもの。
315. レベル4プロセス課題の抽出・整理	<a href="#">M315-001</a>	説明(レベル4プロセス改善課題の抽出の主要アクティビティ)	1	13-30	1	レベル4プロセス改善課題を抽出するための主要なアクティビティを説明したもの。
	<a href="#">M315-002</a>	説明(レベル4プロセス改善課題の抽出の観点)	1	13-31		レベル4プロセス設計におけるプロセス改善課題の抽出の観点について、COSOの内部統制の目的の4つの観点から説明したもの。①業務の有効性、②業務の効率性、③財務報告の信頼性、④関連法規の遵
	<a href="#">M315-201</a>	説明(プロセス改革目標(KPI)の構造化)	1	13-31		レベル3の事業目標値をレベル4プロセスのパフォーマンス指標に構造化するか考え方を示したもの。
	<a href="#">M315-801</a>	OUT(レベル4プロセス改善課題一覧表)	1	13-33		レベル4プロセス改善課題を整理しておくためのレイアウト。
	<a href="#">M315-901</a>	説明(現状のレベル4プロセス改善課題を抽出した結果)	1	13-34		レベル4プロセスの分析・設計として、現状プロセスの改善課題を抽出した結果をプロセス詳細記述書のプロセス構成要素ごとに記述する。
320. レベル4標準シナリオ	<a href="#">M320-011</a>	技法(標準シナリオの作成方法(プロセス構成要素))	1	13-35		プロセス参照モデル(ESCORT他)と現状レベル4プロセス詳細記述書から、そこに含まれるプロセス構成要素を標準化して、標準的な業務シナリオを作成する方法をしめたもの。
325. プロセス改革要求の構造化	<a href="#">M325-000</a>	説明(プロセス改革要求のレベル4構造化の方法)	2	13-36,37	2	レベル3プロセス上のプロセス改革要求について、レベル4プロセスとそのプロセス構成要素への構造化の方法として、3段階のステップ、特に要素分解について説明したもの。
	<a href="#">M325-001</a>	説明(プロセス改革要求のレベル4構造化の主要アクティビティ)	1	13-38	1	プロセス改革要求(レベル3)をレベル3プロセス配下の複数のレベル4プロセスとそのプロセス構成要素に構造化するための、主要アクティビティについて説明したもの。
	<a href="#">M325-101</a>	技法(プロセス改革要求のレベル4プロセスへの対応付け)	2	13-39,40		プロセス改革要求(レベル3)について、複数のレベル4プロセスの機能に対して、もれなく対応付けるための技法。
	<a href="#">M325-102</a>	ツール(プロセス改革要求のレベル4プロセスへの構造化シート)	1	13-41	1	同上のためのワークシート +プロセス改革要求のレベル4プロセスへの分解のための2次元シートと分解の留意点、 <b>分解の事例</b> +分解したものを詳細化するための2次元シートと詳細化の留意点、 <b>詳細化の事例</b> 付き。
	<a href="#">M325-103</a>	事例(プロセス改革要求の構造化による新レベル4プロセスフローの作成)	1	13-42	1	プロセス改革要求の構造化によるレベル4プロセスフローの事例。新たに必要になったプロセスは、プロセス参照モデルを参考に定義した。
	<a href="#">M325-111</a>	技法(プロセス改革要求のレベル4プロセス構成要素への構造化(分解))	2	13-43,44		プロセス改革要求のレベル4プロセス構成要素への分解の技法を説明したもの。 プロセス改革要求(レベル3)をプロセス改革区分(設備・工程、プロダクト、組織・業務ルール、業務プロセス機能、人のスキル・意欲、情報と情報システム)ごとにプロセス構成要素への分解方法。
	<a href="#">M325-121</a>	技法(プロセス構成要素の詳細化)	2	13-45,46		プロセス構成要素に定義された内容を、8W2Hの観点から詳細化するポイントを説明したもの。
	<a href="#">M325-202</a>	事例(プロセス改革要求のレベル4プロセス構成要素への構造化)	2	13-47,48	2	レベル3のプロセス改革要求について、プロセスごとに2次元シートによって、レベル4プロセス構成要素へ分解と詳細化の2段階によって構造化した例。同様に、他のレベル4プロセスにも構造化されている。



緑色のものは、PP資料のNoteに詳細説明あり

ワークパッケージ	説明・技法・ツール・リファレンス・事例	枚	ソース	Note	内容説明
	<a href="#">M325-204</a> 事例(プロセス改革要求のレベル4イン プット・アウトプットへの構造化)	1	13-49		レベル3のプロセス改革要求について、それから構造化されたインプットとアウトプットの詳細を記述した 例。
	<a href="#">M325-205</a> 事例(プロセス改革要求のレベル4業務 ルールへの構造化)	1	13-50		レベル3のプロセス改革要求について、それから構造化された業務ルールの詳細を記述した例。
	<a href="#">M325-901</a> 説明(プロセス改革要求のレベル4プロ セスへ構造化した結果)	1	13-51		プロセス改革要求のレベル4プロセスへの構造化の結果は、各々のプロセス構成要素について、「現状プロ セスの調査・記述」に続く、「プロセス改革要求の構造化」の欄に反映させる。
328.レベル4プ ロセス設計	<a href="#">M328-001</a> 説明(レベル4プロセス設計の主要アク ティビティ)	1	13-52	1	A.現状プロセスの維持機能、B.プロセス改革要求の実現、Cレベル4プロセス課題の解決、この3つの実現 のためのレベル4プロセス設計の主要なアクティビティを説明したもの。
	<a href="#">M328-201</a> 技法(レベル4プロセス課題の原因となる プロセスの特定)	1	13-53	1	レベル4プロセス課題の原因が別のプロセスに存在する場合の特定の方法を説明したもの。たとえば、イベ ントデータの精度が悪いとか、リソースの過不足が生じているとか。
	<a href="#">M328-202</a> 事例(イベントデータフロー)	1	13-54		業務参照モデルのインプット・アウトプット説明書から、「有効受注データ」のイベントデータフローを作成し た例。プロセスにおけるCRUDが明確になる。
	<a href="#">M328-203</a> 事例(リソースフロー)	1	13-55		業務参照モデルのインプット・アウトプット説明書から、「出荷リソース」のリソースデータフローを作成した 例。能力計画、リソースと情報の管理、割当計画、リソース利用などのプロセスが明確になる。
	<a href="#">M328-301</a> 説明(レベル4プロセス設計(プロセスフ ロー))	1	13-56	1	事例Aにおいて、プロセス改革要求(レベル3)とレベル4プロセス課題を反映したレベル4プロセス設計によ るプロセス図。レベル3プロセス図はM235-201を参照のこと。
	<a href="#">M328-302</a> 説明(レベル4プロセス設計(プロセス詳 細記述書))	2	13-57,58	2	プロセス改革要求の実現策、および現状レベル4プロセス課題の解決策とがレベル4プロセス設計となる。 レベル4プロセス設計によるプロセス構成要素の(再)設計のポイントの説明。
	<a href="#">M328-304</a> 説明(レベル4プロセス設計(インプット・ アウトプット説明))	2	13-59,60	2	レベル4プロセス設計によるインプットとアウトプットの(再)設計のポイントを説明。
	<a href="#">M328-305</a> 説明(レベル4プロセス設計(業務ルール 説明))	2	13-61,62	2	レベル4プロセス設計による業務ルールの(再)設計のポイントを説明。
	<a href="#">M328-901</a> 説明(レベル4プロセス設計の結果)	1	13-63		現状プロセスの調査・記述、プロセス改革要求の構造化に対して、レベル4プロセス設計の結果を追記す る。
	<a href="#">M328-902</a> 事例(レベル4プロセス設計(プロセス詳 細記述書))	1		1	事例Aにおいて、レベル4プロセス設計としてのプロセス詳細記述書の例。
	<a href="#">M328-904</a> 事例(レベル4プロセス設計(インプット・ アウトプット説明))	1		1	事例Aにおいて、レベル4プロセス設計としてのインプット・アウトプット説明書の例。
	<a href="#">M328-905</a> 事例(レベル4プロセス設計(業務ルール 説明))	1		1	事例Aにおいて、レベル4プロセス設計として業務ルール説明書の例。
330. レベル4プロセ スの標準化	<a href="#">M330-003</a> 説明(レベル4プロセスの簡素化・標準 化の流れ)	1	10B-13		業務プロセスについて、まず個々のプロセスの簡素化、完全化、効率化を経て、プロセスベンチマーキング (ベストプラクティス、インターナル)によって標準化する流れを示したもの。
	<a href="#">M330-005</a> 事例(レベル4プロセスの標準化)	3	20-74,75,76		製品と仕向先によって異なる9通りの受注・売上システムの標準シナリオを作成した例。
	<a href="#">M330-011</a> 技法(プロセスの簡素化、完全化、効率 化のポイント)	1	13-67	1	プロセスについて、簡素化、完全化、効率化、各々のポイントを取りまとめたもの。これらのポイントは、T.ダ ベンポートのプロセスイノベーションにも対応付けてある。
	<a href="#">M330-101</a> 説明(プロセスベンチマーキングによる 標準化)	1	10B-15		
	<a href="#">M330-102</a> 技法(プロセスベンチマーキングによる 標準化(プロセス特定))	1	10B-16	1	プロセスの標準化において、ベストプラクティスベンチマーキング、インターナルベンチマーキングの位置 付けを示したもの。
	<a href="#">M330-103</a> 技法(プロセスベンチマーキングによる 標準化(プロセス構成要素))	1	10B-17		ベストプラクティスベンチマーキングの場合、インターナルベンチマーキングの場合、プロセス構成要素をど う標準化するかの方法を示したもの。
	<a href="#">M330-801</a> 説明(業務プロセスの標準化の結果)	1	13-68		業務プロセスの簡素化・標準化の結果は、各々のプロセス構成要素について、「現状プロセスの調査・記 述」、「プロセス改革要求の構造化」に続く、「プロセス簡素化・標準化」の欄に反映させる。

緑色のものは、PP資料のNoteに詳細説明あり

ワークパッケージ	説明・技法・ツール・リファレンス・事例	枚	ソース	Note	内容説明	
340. リスクコントロールの設計	<a href="#">M340-001</a>	説明(レベル4プロセスのリスクコントロール設計のステップ)	1	13-67		レベル4プロセスにリスクコントロールを設計するステップを説明したもの。プロセスフローと個別プロセス(プロセス機能、ITシステム機能、インプット、アウトプット、業務ルール、組織担当)について、リスク識別、リスク分析評価、リスク対応設計によってリスクコントロールを設計していく。
	<a href="#">M340-002</a>	技法(リスクリスト)	1	13-68		識別したリスクをリスクマネジメントプロセスに沿って、トレーサビリティできるようにしたもの。毎回のリスク見直しの際に、継続的に利用できる。
	<a href="#">M340-901</a>	説明(業務プロセスにリスクコントロール組み込みの結果)	1	13-69		業務プロセスへのリスクコントロールの設計の結果は、各々のプロセス構成要素について、「現状プロセスの調査・記述」、「プロセス改革要求の構造化」、「プロセス簡素化・標準化」に続く、「リスクコントロール設計」の欄に反映させる。
345. 共通ビジネスサービス化(レベル4)の検討と設計	<a href="#">M345-001</a>	説明(共通ビジネスサービス(レベル4)の検討と設計)	1	13-70		共通ビジネスサービス(レベル4)の検討と設計のステップのイメージを示したもの。
	<a href="#">M345-101</a>	説明(共通ビジネスサービスの抽出の観点例)	1	13-71		SCOR-Enableにおける、ビジネスルール、パフォーマンス、データ、プロダクト、設備、輸送、ネットワーク、規制、リスク、各々の管理の観点は共通ビジネスサービスの抽出に有効である。
	<a href="#">M345-301</a>	説明(共通ビジネスサービス化の結果)	1	13-72		共通ビジネスサービス化設計の結果は、各々のプロセス構成要素について、「現状プロセスの調査・記述」、「プロセス改革要求の構造化」、「プロセス簡素化・標準化」に続く「共通ビジネスサービス化設計」の欄に反映させる。
350. 概要レベルIT要求定義	<a href="#">M350-001</a>	説明(レベル4プロセス設計によるIT要求定義とその効果)	2	13-79,80	2	プロセス設計によるユーザ要求定義には、属人的・例外的な要求や利用されない要求を事前に排除できる。また、ユーザ要求を安定化させるなど大きな効果がある。
	<a href="#">M350-002</a>	説明(概要レベルIT要求定義の主要アクティビティ)	1	13-81	1	レベル4プロセス設計をもとにした要求定義プラクティス(要求の引き出し、分析、仕様化、妥当性確認)の主要アクティビティを説明したもの。
	<a href="#">M350-003</a>	説明(概要レベルIT要求の引き出し・定義)	1	13-82	1	IT要求の引き出しでは、2次元インタビューシートを利用すれば、個人の属人的能力によらず、プロセス構成要素からもれなくユーザ要求を引き出せる。そして、ユーザ要求の優先順位付けによって、実際に開発するスコープを決定する。
	<a href="#">M350-101</a>	OUT(概要レベルIT要求定義シート)	1	13-84	1	レベル4プロセス単位の概要レベルのIT要求定義書の様式で、要求ヘッダ、要求(ビジネス要求、機能要求、業務ルール、品質属性要求、外部インタフェース)の他に、要求発生元、発生理由(根拠)、要求の安定度、受入適合基準、優先順位などを定義する。
	<a href="#">M350-102</a>	技法(プロセス構成要素ごとのIT要求の引き出し方法)	3	13-85,86,87	3	IT要求の引き出しには、プロセス構成要素とCobiITの情報要請規準を組合せた2次元の質問シートを利用します。引き出したIT要求は、プロセス構成要素ごとに取りまとめます。この2つの軸によって、品質は2σ(95.46%)を達成しています。
	<a href="#">M350-102F</a>	技法(プロセス構成要素とCobiIT情報要請規準)	4			プロセス構成要素とCobiIT情報要請規準との密接な関係について、情報自体の品質、情報サービスとしての品質、この2つの観点において、詳細に説明したもの。これが、IT要求引出しツールM350-102の理論的背景となっている。
	<a href="#">M350-103</a>	事例(プロセス設計からのIT要求の引き出し)	3	13-88,89,90	3	プロセス設計の結果について、プロセス構成要素からの2次元インタビューシート、および8W2Hによる詳細化シートを利用して業務担当者からユーザ要求を引き出し、かつ、疑問点に関して追加質問を行った。実現可能負荷計画の策定のプロセス設計から、ITへのユーザ要求定義を行った例。
	<a href="#">M350-401</a>	技法(IT要求定義の形式検証のためのチェックポイント)	1	13-92		記入された要求定義書(M350-101)に関する形式検証のためのチェックポイントをまとめたもの。たとえば、用語集に未定義の用語を使ってないことなど。
	<a href="#">M350-412</a>	事例(IT要求の受入適合基準)	1	13-93	1	IT要求の妥当性確認について、受入適合基準の意義と記入例をしめした。
	<a href="#">M350-501</a>	事例(プロセス記述からのIT要求定義)	1	13-94		プロセス設計から引き出したユーザ要求とビジネス要求をもとに、レベル4の概要レベルのIT要求定義の例。P1.3.8 実現可能負荷計画の策定
<a href="#">M350-601</a>	説明(概要レベルIT要求定義の結果)	1	13-95		業務プロセスの各々のプロセス構成要素について、「現状プロセスの調査・記述」、「プロセス改革要求の構造化」、「プロセス簡素化・標準化」、「リスクコントロール設計」、「共通ビジネスサービス化設計」が反映しているが、続いて「ITユーザ要求定義」の欄に結果を反映させる。	

緑色のものは、PP資料のNoteに詳細説明あり

ワークパッケージ	説明・技法・ツール・リファレンス・事例	枚	ソース	Note	内容説明
	<a href="#">M350-701</a> 技法(概要レベルIT要求からの概念データモデルの作成)	1	13-96		設計されたレベル4プロセスの各プロセス構成要素(BA)から、エンティティとデータ属性を抽出して、概念データモデルを作成する方法を示している。
	<a href="#">M350-702</a> 事例(IT要求定義からのデータモデリング)	1	13-97		プロセス設計から引き出し定義された要求定義書(M350-104)から、概念データモデルを作成した例。
351.レベル4非機能要求の		1			
352.レベル4ユーザ要求の優先順位付け	<a href="#">M352-011</a> ツール(要因によるITユーザ要求の優先順位付け)				ユーザ要求についてRobertsonが示している、顧客から見た価値、ビジネスから見た価値、実現に要する最小コスト、実現の容易性の要因から、優先順位の重みを計算するシートの例。
	<a href="#">M352-012</a> 技法(要因によるITユーザ要求の優先順位付け)	1	13-98	1	同上の説明。
360.レベル5プロセス設計方針の決定	<a href="#">M360-001</a> 説明(レベル5プロセス設計方針の決定の主要アクティビティ)	1	13-103	1	定型・非定型プロセスへのレベル5設計方針の決定の手順を説明したもの。プロセス改善区分ごとに、改善すべき対象、およびそのIT要求(機能、非機能)を定義(これもRFP作成、ITソリューション選定の対象となる)。
	<a href="#">M360-501</a> 事例(業務シナリオの定義)	1	13-105		事例Aにおける業務シナリオの定義の例。MTS品/ETO品営業案件管理、提案仕様書作成進捗管理、ETO品見積進捗管理、設計進捗管理とブロック化して進捗管理と情報共有を行う。
	<a href="#">M360-601</a> 個別プロセスからのIT機能要求の引き出し(非定型業務)	1	13-106	1	非定型業務に関しても、個別プロセス、またはブロック化されたプロセスに対して、プロセス構成要素とCobiTの情報要請規準(可用性と信頼性を除く)組合せによって、ITへの機能要求を引き出すための有効な質問ができる。
	<a href="#">M360-602</a> 事例(個別プロセスからのIT機能要求(非定型業務))	1	13-107	1	事例Aにおいて、非定型業務の個別プロセス(sD3.01-1:RFP/RFQの入手と確認、M328-902)からIT機能要求を定義したもの。定義方法は、M800-241Bを参照のこと。
	<a href="#">M360-801</a> 事例(レベル5プロセス設計方針)	1	13-108	1	レベル4プロセスのプロチャート(M328-301)に記載した受注・出荷、開発統括(構想設計)、製品設計・試作、生産などの全体業務からは、設計区分ごとに、以下のIT要求を引き出せました(表はサマリ)。白抜部分は、最初のイテレーション(設計が3カ月間、運用・改善が3カ月間)で開発完了。
370.IT選定前のプロジェクト詳細計画の作成	<a href="#">M370-011</a> 事例(フェーズIVプロジェクト計画書の目次)	1	13-109	1	フェーズIVプロジェクト計画書の章立の例をしめたもの。プロジェクト憲章構成するこれらを作成するために、ここまでのフェーズIIIが実施されてきた。そして、ITソリューションとITベンダーの選定によって、このフェーズIVプロジェクト計画書を変更・修正します。
372.RFPの作成	<a href="#">M372-001</a> 説明(RFPの意義)	1	13-111		ユーザ企業にとっての6つの利点、ベンダーにとって3つの利点を説明、これらが欠落した場合の悪い影響やその例を示したもの。
	<a href="#">M372-002</a> 説明(RFP作成の留意点)	1	13-112		RFP作成の留意点をのべたもの。①要求記述:要求の網羅性・正確性、必要性、粒度、プロジェクト管理要求。
	<a href="#">M372-003</a> 説明(RFP作成プロセス)	1	13-113	1	事務要求の記述、技術要求の記述、プロジェクト管理要求、ベンダー情報要求の記述、評価基準の決定、価格・契約条件の記述、RFPのレビュー・発行、説明会までのRFP作成プロセスを説明したもの。
	<a href="#">M372-004</a> 事例(RFPによるERPとパートナー選定の例)	1	13-114		ERP選定の場合において、選定の3つの目標から逆算して、RFPの構成を決定した事例。
	<a href="#">M372-011</a> REF(RFPテンプレートとは)	1	13-115		提案依頼書(RFP)のテンプレート例。Word形式で、章立ては、事務要求、技術要求、プロジェクト管理要求、ITベンダーからの情報への要請、価格要求、その他の要求、システム分析工程への提案要求。
	<a href="#">M372-012</a> 事例(RFPの例)	1	13-116		RFPの章・節立ての事例。全体は、事務要求、技術要求、プロジェクト管理への要求、ベンダーへの要望の事例、価格提示の要求などから構成されている。プロジェクト管理には、ベンダーに支援して欲しいユーザ企業側の作業を記載してあることに留意。
	<a href="#">M372-111</a> 技法(RFP要求記述要領)	1	13-117	1	RFPの各章・節・項の記述要綱として、その目的、提示内容、提案への要求などを説明したもの。
	<a href="#">M372-131</a> 説明(RFPに書くべきプロジェクト管理要求)	1	13-118		RFPにおいてプロジェクト管理への要求の章に書くべき、節・項について示したもの。これらは、契約範囲として作業範囲記述書SOW(Statement of Work)になる。



緑色のものは、PP資料のNoteに詳細説明あり

ワークパッケージ	説明・技法・ツール・リファレンス・事例	枚	ソース	Note	内容説明	
374.ITソリューションとベンダー選定	<a href="#">M374-001</a>	説明(ITベンダー選定プロセス)	1	13-121	1	ITベンダー選定プロセスとして、提案受付締切、予備評価と1次選抜、評価と2次選抜、詳細評価と3次選抜、最終選抜候補者リスト、プレゼン・デモ、最終評価と最終選抜、評価レポートの作成と経営層への報告までを説明。
	<a href="#">M374-011</a>	ツール(提案書総合評価シート)	1	13-122	1	RFPの各要求別にその重み、詳細要求の評価点によって、ITベンダーの総合得点(客観的評価+主観的評価)を計算、比較するためのシート。
	<a href="#">M374-012</a>	事例(提案書の評価基準と重みの例)	1	13-123	1	RFPの各要求別にその重み、詳細要求の評価点によって、ITベンダーの総合得点を計算するためのシートの例。
	<a href="#">M374-131</a>	説明(提案評価チェックリストとは)	1	13-124		RFPの各要求別に詳細要求についての評価のための測定尺度を例示したもの。
	<a href="#">M374-132</a>	ツール(提案評価チェックリスト)				同上のワークシートで、各要求別に詳細要求について、評価点と評価コメントを記入できるようになっている。
	<a href="#">M374-201</a>	事例(ERP選定)	1	20-81	1	売上700億円の機械メーカーにおけるプロセス標準化を経た、RFP作成とERP選定、導入での事例。3社合併なので、3通りの業務プロセスやルールを抱えていた。このままでは、ERP導入は困難と判断して、計画フェーズに11カ月をかけてRFを作成、ベンダー2社からの提案差は3%以内。
380. プロジェクト詳細計画						
合計		132		58		

緑色のものは、PP資料のNoteに詳細説明あり

ワークパッケージ	説明・技法・ツール・リファレンス・事例	枚	ソース	Note	内容説明	
400. フェーズⅣ概要	<a href="#">M400-002A</a>	説明(フェーズⅣの概要(定型業務))	1	14-3	1	定型業務に関して、当フェーズへの主なインプット、ワークパッケージ(WP)、アウトプットを説明。
	<a href="#">M400-002B</a>	説明(フェーズⅣの概要(非定型業務))	1	14-7	1	非定型業務に関して、当フェーズへの主なインプット、ワークパッケージ(WP)、アウトプットを説明。
	<a href="#">M400-003</a>	説明(フェーズⅣの成果物と要素成果物)	2	14-4,5		当フェーズにおける成果物と要素成果物、その内容を説明。
	<a href="#">M400-004</a>	説明(フェーズⅣのバリエーション)	1	14-6		当フェーズのバリエーション別に、必須またはオプションとなるWPをピックアップ、大概の期間と工数例を記載。
401.スコープ の確認と設定	<a href="#">M401-021</a>	技法(プロセス対応マトリクス(レベル5まで))	1	14-8		事業部門とビジネスユニット名ごとに、そこで実施されているプロセス一覧と該当組織をプロセス階層レベルごとに対応付けたもの。トップダウンアプローチでビジネスプロセスモデリングを行う際の対象を特定するために使用する。ここは、プロセス対応マトリクスのレベル5プロセスの記述方法を説明したもの。
	<a href="#">M401-021</a>	OUT(プロセス対応マトリクス(レベル5対応))	1			レベル4プロセスまで対応付けられたプロセス対応マトリクスに対して、レベル5プロセス分析・設計で必要とする情報、たとえば構造化方針などを付加する。
410. 業務ルール詳細設計・定義	<a href="#">M410-000</a>	説明(業務ルール/情報エンティティ/ツールの定義とIT化)	1	14-13	1	業務ルール/情報エンティティ/ツールに関しては、詳細設計・定義した後に、ITシステムに載せて業務運用しながら、修正し、完成させていく、というインクリメンタルな定義やIT化の考え方を説明したもの。
	<a href="#">M410-001</a>	説明(階層的ビジネスルールモデリング)	1	14-14	1	レベル4プロセス設計の業務ルール説明書から、レベル5以下の業務ルール定義書への階層的なビジネスルールモデリングの考え方を説明したもの。事業戦略や経営機能別戦略、そしてプロセス改革要求から業務ルールへの要求が定義される。
	<a href="#">M410-002</a>	説明(業務ルールの詳細設計・定義の主要アクティビティ)	1	14-15	1	業務ルールの詳細設計・定義のために必要なアクティビティとその概要を説明したもの。
	<a href="#">M410-401</a>	OUTPUT(業務ルール定義書)	1	14-16		業務ルール定義書について、メタモデルの各要素を記載したレイアウト。
	<a href="#">M410-402</a>	技法(業務ルールの詳細設計)	1	14-17		業務ルールのメタモデルの各要素について、必要な8W2Hの観点から詳細設計する方法を説明したもの。
	<a href="#">M410-404</a>	事例(業務ルールの詳細設計・定義)	1	14-18		業務ルール定義書の例を4つ程しめしたもの。
	<a href="#">M410-702</a>	事例(洗練された業務ルール)	2	14-19,20	2	事例Aにおいて、洗練された業務ルールの例をしめしたもの。この業務ルールブックのメタモデル11個の定義はGUTSY-4を若干、カスタマイズしたもの。およびルール全体(Book)を紹介。
412. 情報エンティティ詳細設計・定義	<a href="#">M412-001</a>	説明(階層的情報モデリング)	1	14-21	1	レベル4プロセス設計のインプット・アウトプット説明書から、レベル5以下の情報エンティティ定義書への階層的な情報モデリングの考え方を説明したもの。
	<a href="#">M412-002</a>	説明(情報エンティティの詳細設計・定義の主要アクティビティ)	1	14-22	1	レベル4プロセス設計のインプット・アウトプット説明書から、レベル5以下の情報エンティティ定義書への階層的な情報モデリングの考え方を説明したもの。
	<a href="#">M412-301</a>	説明(情報エンティティの属性と組織の成熟度との関係)	1	14-23		情報エンティティ(特にリソース)では、多くの属性情報を組織的に管理するためには、組織の成熟度が伴わなければならないという、情報エンティティと組織成熟度の関係を説明したもの。
	<a href="#">M412-401</a>	OUTPUT(情報エンティティ定義書)	1	14-24		情報エンティティ定義書について、メタモデルの各要素を記載したレイアウト。
	<a href="#">M412-402</a>	技法(情報エンティティ・属性・プロセスマトリクス)	1	14-25		情報エンティティの属性ごとに、作成、属性の追加、確定(Update)、読み出し(Retrieve)、削除>Delete)などの状態遷移を表したものの。

緑色のものは、PP資料のNoteに詳細説明あり

ワークパッケージ	説明・技法・ツール・リファレンス・事例	枚	ソース	Note	内容説明
	M412-404 事例(情報エンティティ定義書)	2	14-26,27	2	情報エンティティ定義書の例として、ETO品に関する「顧客要求」のヘッダ情報と各属性をしめしたものの。
413.ツール設計・開発	M415-001 説明(ツールの種類)	1	14-28		ツールの種類として、①文書ヒナ型・テンプレート、②情報エンティティから発生、③業務ルールから発生、④情報エンティティと業務ルールが複合したものについて、例をしめしたものの。
	M415-002 説明(ツールの設計・開発の主要アクティビティ)	1	14-29		ツールの設計・開発のために必要なアクティビティとその概要を説明したものの。
	M415-401 事例(ツール(ベテラン暗黙知の形式知化))	1			ベテラン暗黙知の形式知化の事例。今野製作所において、油圧ジャッキの応用製品は工場長も経験した営業ベテラン常務しか営業を担当できなかった。このベテラン暗黙知を形式知化した手順をM415-002に沿って説明したものの。
	M415-404 事例(ツール(業務ルールと情報エンティティの複合))	1	14-30 事例X1		ツールの例として、ETO品に関する顧客要求と取引条件という情報エンティティに対して、質問によってそれらを引き出す方法をしめした事例。
	M415-702 事例(ITシステムによるツール)	1	事例X1		ツールの例として、M415-404をITシステム化した事例。顧客要求項目のステータスを追加。
420.現状のレベル5プロセスの調査・記述	M420-002 説明(現状のレベル5プロセスの調査・記述の主要アクティビティ)	3	14-31	3	レベル4プロセス(現状、設計後)を基に、現状のレベル5プロセスの調査・記述の主要アクティビティを説明したものの。
	M420-003 説明(レベル5プロセスの機能タイプ)	3	14-32,33,34		レベル5プロセスの機能タイプについて、その代表的な呼び名と特徴、同音意義での呼び名、そしてプロセス構成要素の特徴を説明したものの。
	M420-004 説明(レベル5プロセスにおける業務イベントの種類)	1	14-35		レベル5プロセスにおいて想定される11種類のイベントについて、その代表的な呼び名と特徴、同音意義での呼び名、そしてプロセス構成要素の特徴を説明したものの。イベントは、フェルナンド・フローレンス＝テリー・ウィグランドが提唱したCNモデルにおける6種類の業務イベントを拡張した。
	M420-010 説明(レベル4プロセスからレベル5への要素分解技法の種類)	1	14-36		レベル4プロセスからレベル5への分解技法の種類として、非構造化プロセスに対するパターン分解技法、作業系の構造化プロセスに対する業務イベント技法、意思決定系の半構造化プロセスに対する意思決定ダイアグラム技法を説明したものの。
	M420-011 技法(レベル5プロセスへの分解:パターン分解)	1	14-37		レベル5プロセスへの要素分解技法として、パターン分解法を説明したものの。分解パターンとしては、開始イベントの確認、入力1系処理、入力2系処理、価値付加処理、出力系処理、終了イベントの生成がある。
	M420-011A 事例(レベル5プロセスへのパターン分解)	1	14-38		レベル5プロセスへのパターン分解法の例として、レベル4プロセスの需給調整シミュレーションについて説明したものの。
	M420-012 技法(レベル5プロセス分解:業務イベント法による分解)	1	14-39	1	レベル4プロセスから、その業務イベントによって、レベル5プロセスへの分解技法を説明したものの。レベル5への業務イベント候補としては、インプットのエンティティ名が変わる、アウトプットのエンティティ名が変わる、プロセス実行者が変わるなどがある。
	M420-012A 事例(レベル5プロセスへの業務イベント分解例)	1	14-40	1	事例Aにおいて、レベル4のsD3.01-1 RFP/RFQの入手・確認プロセスを業務イベント分解法によって、レベル5プロセスに分解した例。
	M420-013 技法(レベル5プロセス分解:意思決定ダイアグラム法による分解)	1	14-41	1	意思決定系のレベル4プロセスのプロセス構成要素から、意思決定ダイアグラム(C60-20-11)によって、複数のレベル5プロセスへの分解技法、およびプロセス例(4.1C.3-3需給調整シミュレーション)を説明したものの。
	M420-013A 事例(レベル5プロセスへの意思決定ダイアグラム例)	1	14-42		意思決定系のレベル4プロセスについて、分解シートM900-561Cによって、プロセス分解した例を説明したものの。
	M420-031 現状のレベル5プロセスの調査・記述	1	14-43		レベル5プロセス候補に対して、現状のレベル5プロセスを調査した結果をプロセスフローとプロセス詳細記述書に記述する。プロセス構成要素はレベル4の場合と同じ。
	M420-032 OUT(レベル5プロセス詳細記述書)	1	14-44		個別のレベル5プロセスについてそのプロセス構成要素を記述するためのワークシート。「現状のレベル5プロセスの調査結果」だけでなく、「レベル4プロセス設計の構造化」や「レベル5のユーザ要求定義」の欄
	M420-033 事例(レベル5プロセスフロー)	1			レベル5プロセスフローの例。McCormic社、XYZ Steel社。
M420-103 事例(レベル5プロセス図)	3		1	数は少ないが、レベル5プロセス図の例を提示したものの。事例Aでは、Note欄に詳細説明あり。	



緑色のものは、PP資料のNoteに詳細説明あり

ワークパッケージ	説明・技法・ツール・リファレンス・事例	枚	ソース	Note	内容説明
	<a href="#">M420-201</a> 技法(代替・例外処理の簡易的抽出)				通常処理ではない、代替処理と例外処理の定義、および主要なプロセス構成要素別に、その観点と例を示したものの。
422. レベル5プロセスへの構造化設計	<a href="#">M422-001</a> レベル5プロセス設計の各種の方法	1	14-45	1	実行タスクであるレベル5プロセス設計の3つの方法を比較したもの。①レベル5だけの単独設計(多くのBPM事例)、②レベル5設計後に、他との整合性を取る(多くの複雑な商品を持つ場合)、③レベル4プロセス設計を受けてレベル5プロセスを構造化設計。GUTSY-4は③の方法によって、全体最適と個別最適の融合を実現している。
	<a href="#">M422-002</a> 説明(レベル5プロセスへの構造化設計の主要アクティビティ)	1	14-46	1	レベル4プロセス<設計後>を基に、レベル5プロセス設計の主要アクティビティを説明したもの。【420】の出力のレベル5プロセスフローにおいて、現状に存在するもの、新規で追加するレベル5プロセスが明確にレベル4プロセスをプロセス構成要素ごとに、レベル5プロセスに構造化する際のポイントを説明したもの。
	<a href="#">M422-101</a> 技法(レベル4プロセス構成要素のレベル5への要素分解)	1	14-47		
	<a href="#">M422-103</a> ツール(レベル5プロセスへの構造化シート)	1			レベル5プロセス設計を行うためのワークシート。①現状のレベル5プロセス記述に対して、レベル4プロセス設計を分解して反映、②この各プロセス構成要素を8W2Hの観点から詳細化。
	<a href="#">M422-201</a> 技法(レベル5プロセス構成要素の詳細化)	1	14-48		分解されたレベル5プロセスのプロセス構成要素について、8W2Hの観点から詳細化する方法とそのポイントを説明したもの。≒M325-121
	<a href="#">M422-301</a> 技法(レベル5プロセス設計)	1	14-49		レベル4プロセス設計を構造化したものを反映、さらに現状プロセスで踏襲すべき機能の継続、このためのレベル5プロセス設計のポイントを説明したもの。≒M328-302
425. IT要求定義 (非定型業務)	<a href="#">M425-001</a> 説明(非定型業務からのIT要求)	2	14-50,51	2	非定型業務においても、ブロック化された、または単独プロセスのプロセス構成要素から、7種類の区分のIT機能要求を引き出すことができる。1.業務ルール、2.情報エンティティ、3.ツール、4.プロセス管理、5.ロール管理、6.パフォーマンス管理、7.業務定義について、これらの詳細を説明したもの。
	<a href="#">M425-002</a> 説明(BPMツールを利用したレベル5プロセス定義)	2	14-52,53	2	非定型的業務ではBPMSを利用すると、M400-002Bの複数のWBSをアジャイルに実施して、業務シナリオごとのレベル5プロセスやITシステムをインクリメンタルに構築できます。
	<a href="#">M425-003</a> 事例(BPMツールを利用したレベル5プロセス定義とIT化)	6	14-53		BPMツールを利用したレベル5プロセス定義とIT化の事例におけるインクリメンタル開発の実際のステップを説明したもの。①レベル4設計を確認、業務シナリオを選定、②業務シナリオを選定、レベル5分解、③業務シナリオのプロトタイプの開発、④ワークショップを開催し、プロトタイプを検討、⑤プロトタイプを運用して修正、⑥次の業務シナリオを選定、開発
	<a href="#">M425-102</a> 事例(業務ルールを定義・参照する)	1	事例X1		非定型業務のIT化の例として、文書管理ソフトを利用した業務ルールの定義と参照の仕組みを説明したもの。
	<a href="#">M425-202</a> 事例(情報を登録する)	1	事例X1		非定型業務のIT化の例として、情報エンティティの各属性の登録の仕組みを説明したもの。
	<a href="#">M425-302</a> 事例(ツールを利用する)	1	事例X1		非定型業務のIT化の例として、業務ルールと情報エンティティを組み合わせたツールの仕組みを説明したもの。
	<a href="#">M425-402</a> 事例(プロセス機能定義)	1	14-59	1	事例Aにおいて、非定型業務のIT化として、レベル5プロセスの各プロセス機能の定義とその実行の仕組みを説明したもの。
	<a href="#">M425-403</a> 事例(意思決定の場)	1	事例X1		非定型業務のIT化の例として、他の人や上司を含めた意思決定の場の仕組みを説明したもの。
	<a href="#">M425-602</a> 事例(プロセス進捗管理)	1	事例X1		事例AにおけるITによる営業案件の進捗管理の例。
428. 業務運用設計	<a href="#">M428-003</a> 説明(業務運用設計のWBS)	1	14-61		業務運用設計のWBSとして、業務ルールの整備、業務運用設計、業務運用体制の整備、業務運用環境の整備、
	<a href="#">M428-401</a> 事例(業務運用マニュアル)	1	14-62		業務運用マニュアルの目次例。複数の異なったシステム間を流れるデータの説明、新旧の用語の比較・説明、ITシステム中心の業務フローでも、プロセス機能、組織・担当、インプット、アウトプット、業務ルールだけでなく、「押印」や「承認」などのコントロールもフローに記載すべき。
429. 業務移行	<a href="#">M429-002</a> 技法(業務移行パターン)	1	14-63		新しい業務プロセスや情報システムへ移行する際に、仕掛品を持ったまま移行するかどうか最大のポイントになる。仕掛品の移行パターンとしての4種類をあげ、その概要や留意点を説明したもの。

緑色のものは、PP資料のNoteに詳細説明あり

ワークパッケージ	説明・技法・ツール・リファレンス・事例	枚	ソース	Note	内容説明
	<a href="#">M429-003</a> 説明(業務移行のWBS)	1	14-64		業務移行のWBSとして、業務移行体制、業務移行計画、業務移行マニュアル作成、業務移行リハーサル、実際の業務移行、業務移行の評価などを説明したもの。
	<a href="#">M429-031</a> 事例(業務移行計画、会計・原価)	1	14-65		会計、売掛、買掛や原価計算の各業務について、業務移行における重要なアクティビティとタスク内容に関する実際の事例。
	<a href="#">M429-032</a> 事例(業務移行計画、生産)	1	14-66		生産系業務について、業務移行における重要なアクティビティとタスク内容に関する実際の事例。
430.	<a href="#">M430-001</a> 説明(IT要求をベースにしたインクリメンタルIT構築)	1	14-67		UP(Unified Process)に沿った開発として、「IT要求をベースにしたインクリメンタルなIT構築」の流れを説明したもの。ITソリューション(開発手法)に依存する部分として、システム分析、システム設計、システム開発・テストの工程がある。しかし、要求定義と評価は非依存なので、複数の異なる開発手法を組み合わせることでインクリメンタル開発ができる。
	<a href="#">M430-002</a> 説明(IT開発手法による工程へのウェイトのかけ方の相違)	1	14-68		開発工程(レベル5プロセス設計、レベル5要求定義、ソフトウェア要求仕様定義、概要・詳細設計、ソフトウェア開発・テスト)におけるウェイトのかけ方の相違を開発手法(ERP、個別開発、自動生成)ごとに説明したもの。
	<a href="#">M430-003</a> 説明(ERPの場合(プロセス設計、IT要求定義、ERP導入))	1	14-69		プロセス設計、これからの要求定義、そしてRFP作成とITソリューションとしてERP選定、ソフトウェア要求仕様定義としてのERPとのフィット&ギャップ分析、テスト設計、ERP設計・開発、テストの全体の関係をしめし
	<a href="#">M430-003E</a> 事例(BPMを経たERP導入)	1	20-105	1	プロセス志向イノベーションフォーラム2009で発表された事例。BPMを経た場合、同規模のユーザ事例に比較して、期間は45%短縮、導入コストは38%削減、そして「要求が安定していた」という。
	<a href="#">M430-004</a> 説明(個別開発の場合(プロセス設計、IT要求定義、ソフトウェア開発))	1	14-70		プロセス設計、これからの要求定義、そしてRFP作成とITソリューションとして個別開発の選定、ソフトウェア要求仕様定義としてのCRCや体系表作成、テスト設計、システム設計・開発、テストの全体の関係をしめし
43N. イテレーション N導入・実装	<a href="#">M431-001</a> 詳細レベルIT要求定義の各種の方法	1	14-71	1	詳細レベルIT要求定義の各種の方法として、レベル4プロセス設計を経ないもの、レベル4プロセス設計を経るもの、各々のいくつかの方法と長所・短所を説明したもの。
	<a href="#">M431-002</a> 詳細レベルIT要求定義の主要アクティビティ①	1	14-73,74	2	レベル5プロセス設計から詳細レベルのITユーザ要求を定義するために、要求定義プラクティスを含む主要アクティビティを説明したもの。
	<a href="#">M431-003</a> 詳細レベルIT要求定義の主要アクティビティ②	2	14-75,76	2	概要レベルのITユーザ要求をレベル5に構造化して、詳細レベルのITユーザ要求を定義するために、要求定義プラクティスを含む主要アクティビティを説明したもの。
	<a href="#">M431-011</a> 説明(概要レベルIT要求をレベル5へ分解)	2	14-77,78		構造化方針Bの場合における、レベル4要求の発生元である各々のプロセス構成要素をレベル5に分解することによって、レベル4要求をレベル5要求に分解する方法をしめしたものの。
	<a href="#">M431-012</a> 説明(イテレーションNにおける詳細レベルITユーザ要求定義)	2	14-79		イテレーション2以降では、イテレーション1(ベースライン)で定義されたIT要求を再定義する。この場合に、①前イテレーションにおいて開発・テストが完了したが、要求を満たさない、あるいは要求が変更になった、②いままでも未開発に置かれた要求、③新たに発生した要求、これらの3種類の要求をレビューして要求を(再)定義する。
	<a href="#">M431-021</a> OUT(詳細レベルIT要求定義書)	2	14-80,81	2	レベル5要求定義書はレベル4とフォーマットはほぼ同じ。これに加えて、要求詳細としてVMC(データ、ロジック、画面)からの定義情報を持っている。
	<a href="#">M431-022</a> ツール(プロセス構成要素ごとの詳細レベルIT要求の引き出しシート)	1	14-82	1	要求の引き出し:プロセス構成要素とCobiTの情報要求規準を組合せた2次元の質問シート。
	<a href="#">M431-023</a> ツール(プロセス構成要素ごとの詳細レベルIT要求の詳細化)	1	14-83	1	要求の詳細化:VMCごとの詳細化するためのシート。
	<a href="#">M431-061</a> 事例(詳細レベルIT要求定義レビュー)	3	20-102,103,104	3	売上2,000億円の非鉄金属メーカーでの詳細レベルIT要求定義レビューの事例です。既に、開発開始されていた要件定義(手段)について、ビジネスプロセスに立ち戻って、IT要求(目的)を類推・仮説してレビューしました。結果は、オンタイムで開発完了して、要求の手戻り・追加なし。
	<a href="#">M431-131</a> 技法(詳細レベル5IT要求から概念データモデルの作成)	1	14-84		設計されたレベル5プロセスの各プロセス構成要素(BA)から、エンティティとデータ属性を抽出して、概念データモデルを作成する方法を示している。
	<a href="#">M431-211</a> 技法(ERPフィット&ギャップ分析)	1	14-85	1	ERPフィット&ギャップ分析においては、要求定義プラクティスに沿いながら要求を確認して、実現方法としてのERPとのギャップを明確にする。プロセス設計によって、レベル5要求が明確になっていけば、ここは簡単に済む筈である。

緑色のものは、PP資料のNoteに詳細説明あり

ワークパッケージ	説明・技法・ツール・リファレンス・事例	枚	ソース	Note	内容説明
	<a href="#">M431-212</a> 技法(ERPソリューション設計)	1	14-86	1	次に、ERPソリューション設計においては、明確になったギャップへの対応方針を設計する。組織、基本機能、アドオン、帳表、インタフェース、移行などに関する要件を検討して、ERPによるソリューションを設計する。具体的には、パラメータ設定、アドオン開発、外出し、データインタフェースによるOA連携など。
	<a href="#">M431-213</a> 技法(ERPとのギャップへの対応方針)	1	14-87	1	ERPソリューション設計において、要求とERPとのギャップに対して、①業務機能の廃止、②業務機能の変更、③現行の業務機能の保証、④保留、この4つの観点から、ギャップ対応方針を定める。
	<a href="#">M431-214</a> 事例(ERPフィット&ギャップ分析)	1	14-88		ERPフィット&ギャップ分析とERPソリューション設計の例。レベル4機能要求の詳細としてのレベル5機能要求に対するプロトタイプの評価・問題点と対応方法(未記入だが)をERP要求仕様として取りまとめたもの。
	<a href="#">M431-222</a> 説明(CRCモデリングとGUTSY-4の比較)	1	14-91	1	CRCモデリングの前半は要求分析であるが、システム分析者に高い業務知識を利用するなどの前提条件があり、あまり日本では実施されていない。これとGUTSY-4を比較したもの。
	<a href="#">M431-223</a> 技法(CRCモデリングからドメインモデル作成まで)	2	14-92,93	2	オブジェクト指向分析によるソフトウェア要求仕様定義として、ユースケースからのCRCモデリング、ユースケース洗練、イベント分析、ユースケース詳細化、システムシーケンス図作成、ドメインモデル(分析クラス図)までの手順をしめたもの。もともとユースケース記述法が曖昧なための影響を受けており、GUTSY-4のプロセス設計によればもっとスムーズになる。
	<a href="#">M431-224</a> 事例(CRCによるソフトウェア要求仕様定義)	1	14-94		CRCモデリングによって、ユースケースを洗練化・詳細化して、体系表(分析クラス)を作成した例。
	<a href="#">M431-231</a> 説明(ソフトウェア自動生成(GeneXus))	1			プロセス設計によって定義された要求(システム機能、インプット、アウトプット、業務ルール、組織担当)は、CIMとしてGeneXusなどへのソフトウェア要求仕様(PIM)のための多くの情報を持っている。
	<a href="#">M431-421</a> 技法(ソフトウェア要求仕様による要求の優先順位の再計算)	1	14-95		ソフトウェア要求仕様が固まると、そのコスト見積もりも詳細レベルとなる。したがって、このコストを考慮して要求の優先順位を再計算することができる。
465.システム運用支援体制	<a href="#">M465-201</a> 事例(ヘルプデスク)	1	20-110		ヘルプデスクの役割として、テストへの参画、各種マニュアルの作成と改定、ユーザ教育の主体、ユーザへの支援窓口などの事例。これによって、ユーザが新しい業務プロセスと情報システムを安定的に運用して
470.マスタ移行・データ移行	<a href="#">M470-001</a> 説明(マスタ・データ移行のCSF)	1	14-96		マスタ・データ移行を軽視してはならない、マスタ・データのクリーニングが平行したりするクリティカルな作業である。開発工程別のマスタ・データ移行に関する要素成果物、およびそのためのCSFを説明している。
	<a href="#">M470-002</a> 説明(マスタ・データ移行と他の成果物との関連)	1	14-97		本稼働までに都合、5回のマスタ・データ移行が必要となる。特に、パイロット移行の精度が統合テストの進捗・品質に大きく影響し、移行結果は統合テストでなければ検証し切れないという相互依存関係がある。ユーザ教育の現実感もデータ移行に大きく影響される。
	<a href="#">M470-003</a> 説明(マスタ・データ移行のWBS)	1	14-98		ユーザ企業側の業務であるマスタ・データ移行に関するWBS(ワークパッケージとアクティビティ)。また、この下位として標準作業タスクが用意されている【P920-201】。
480.ユーザ教育	<a href="#">M480-001</a> 説明(ユーザ教育のCSF)	1	14-99		ユーザ教育を軽視してはならない、マスタ・データと並ぶIRMの重要要素の一つである。開発工程別のユーザ教育に関する要素成果物、およびそのためのCSFを説明している。
	<a href="#">M480-002</a> 説明(ユーザ教育のWBS)	1	14-100		ユーザ企業側の業務であるマスタ・データ移行に関するWBS(ワークパッケージとアクティビティ)。また、この下位として標準作業タスクが用意されている【P920-201】。
	<a href="#">M480-031</a> 事例(ユーザ教育コースと教育体制)	1	20-111		利用部門をキーユーザ、スーパーバイザ、インストラクタ、一般ユーザとクラス分けして、18名のスーパーバイザが40名のインストラクタを教育、インストラクタが900人の一般ユーザを教育というように、階層的にユーザ教
490.統合テスト	<a href="#">M490-001</a> 説明(統合テスト、システムテスト、運用テスト)	1	14-101		統合テスト、システムテスト、運用テストについて、テストとしての各々の目的、テストに入れるための前提条件などを説明したもの。
	<a href="#">M490-002</a> 説明(統合テストのWBS)	1	14-103		ユーザ企業側とITベンダーの共同作業である統合テストの目的は新しいアプリケーションとマスタの確認である。統合テストに関するWBS(ワークパッケージとアクティビティ)を説明。また、この下位として標準作業タスクが用意されている【P920-201】。
	<a href="#">M490-003</a> 説明(統合テストのリスクと対応策)	1			統合テストにおける代表的なリスクとその対応策を説明したもの。
491.システムテスト(技術テスト)	<a href="#">M491-002</a> 説明(システムテストの成果物WBS)	1	14-104		ユーザ企業側とITベンダーの共同作業であるシステムテスト(技術テスト)の目的は新しい情報システムの技術基盤をテストすることである。システムテストに関するWBS(ワークパッケージとアクティビティ)を説明。また、この下位として標準作業タスクが用意されている【P920-201】。
	<a href="#">M491-003</a> 説明(システムテストのリスクと対応策)	1			システムテストにおける代表的なリスクとその対応策を説明したもの。

緑色のものは、PP資料のNoteに詳細説明あり

ワークパッケージ	説明・技法・ツール・リファレンス・事例	枚	ソース	Note	内容説明
492.運用テスト	<a href="#">M492-002</a> 説明(運用テストの成果物WBS)	1	14-105		ユーザ企業側の責任である運用テストの目的は新しい業務プロセスと新しい情報システムを本番環境でテスト・確認することである。運用テストに関するWBS(ワークパッケージとアクティビティ)を説明。また、この下位として標準作業タスクが用意されている【P920-201】。
	<a href="#">M492-003</a> 説明(運用テストのリスクと対応策)	1			システムテストにおける代表的なリスクとその対応策を説明したもの。
合計		120		44	



緑色のものは、PP資料のNoteに詳細説明あり

ワークパッケージ	説明・技法・ツール・リファレンス・事例	枚	ソース	Note	内容説明
	M800-000 業務参照モデルのコンテンツと特長	3	02-38,39,40	3	業務参照モデルのコンテンツ一覧、およびその特長を説明したもの。
	M800-001 業務参照モデルの各コンテンツ	2	02-41,42	2	業務参照モデルの各コンテンツの内容、およびコンテンツ間の関係を説明したもの。
	M800-002 業務参照モデルのカバー範囲	2	02-43,44,45		業務参照モデルのうち、プロセス参照モデルがカバーしている範囲として経営機能や定義の特長、および収容しているプロセス数を説明したもの。
	M800-003 業務参照モデルの開発経緯と適用プロジェクト	1	02-46		GUTSY-4のプロセス参照モデルの品質として、その開発経緯について、SCOR等のベース、レビュー、適用プロジェクトなどを説明したもの。
	M800-004 業務参照モデルと各業界との対応	2	02-47		業務参照モデルと各業界との対応や適用実績を説明したもの。そして、これによって、経験を蓄積・共有していけば、業界・業種・業務別のSE組織編制が不要になり、多くの効果が得られることを示したもの。
	M800-005 プロセス参照モデルがない場合のGUTSY-4の制限事項	1	10A-94		プロセス参照モデルが存在する場合、業務機能体系表だけが存在する場合、業務機能体系表もない場合、この3つのケースについてのフェーズⅠ～Ⅲにおける制限事項をリストアップしたもの。
	M800-010 REF(業務機能体系表)	3	02-52,53,54	3	企業のほぼすべての業務機能ドメイン(レベル1～レベル4)に関する参照モデルであり、SCOR、DCOR、PCF、経済産業省の財務・経理モデルなどを合体したもの。サプライチェーン以外の経営機能ドメイン、たとえば、人事管理、経理、財務、総務・庶務、法務、知的財産管理、製品・サービス開発、販売・マーケティング、顧客サービスなどに関するプロセスを包含する。
	M800-011 REF(標準ITシステム機能リファレンス)	1	02-59		ビジネスプロセスに対応する標準的なITシステム名、ITサブシステム名、ITサブシステムの機能概要を一覧表にしたもの。情報システムをプロセスと対応付けることによって、全般調査や機能見直しを容易に行える。
	M800-012 REF(組織機能リファレンスモデル)	2	02-50,51	2	業務機能体系表のレベル1～3に対応する組織とその機能に関する参照モデル。業務インタビューやプロセスモデリングを行う際に、これを利用して該当する組織を探し出すことができる。
	M800-013 REF(業種別ステークホルダ関連図(8業種))	1	02-49	1	8つの業種について、標準的なスコープ全体図をしめたもの。製造業(自社製品)、製造業(下請型)、建設業(元請)、建設業(下請)、卸売業、小売業、対物サービス業、対人サービス業。
	M800-020 ツール(業務課題インタビューシート(レベル2、3))	2	02-55,56,58	2	業務機能部門間、あるいは他部門へ影響するレベル2プロセスに位置する業務課題を引き出すための業務インタビューシート。4つのパートから構成されており、一つの業務機能について、20個の位の質問があります。このシートの右側の空欄に、質問への回答を記入していきます。
		2	02-57,58		レベル3プロセスに位置する業務課題を引き出すための業務インタビューシート。レベル2業務課題について、この業務インタビューシートを利用して、問題・課題が存在するレベル3プロセスを特定できる。
	M800-090 REF(業務用語集)	3	02-79,80,81	3	業務領域ごとの企業間で共通的な業務用語の意味を説明したもの。700個弱を収容。構造は、a.索引、b.業務領域、c.業務用語、d.製造業特有区分、e.用語の説明、f.同義語・類似語
	M800-099 GUTSY-4におけるメタモデル一覧	1	10M-35		GUTSY-4における各モデルのメタモデルを概説したもの。対象は、ビジネスモデル、ビジネスプロセスモデル、業務ルール、情報エンティティ、組織、人の職務能力。
	M800-100 技法(ビジネスモデルのメタモデル)	1	10M-36	1	ビジネスモデルのメタモデルについて、3C(市場・顧客、競合、自社)と6W2Hの観点から洗い出したもの。ビジネスモデルキャンパス(M800-100X)とも比較。この8つのメタモデルによって、3C(市場・顧客、競合、自社)との組み合わせで、24個の観点から、事業戦略を形式検証できます。
	M800-101 技法(ビジネスプロセスモデルのメタモデル)	3	10M-37,38,39	3	ビジネスプロセスモデルのメタモデルとして、ESCORTのプロセス構成要素を説明したもの。主なもの:プロセス名、プロセス機能、インプットが3種類、アウトプットが3種類、⑤務ルールなどコントロールが4種類、担当責任組織など。
	M800-101A 説明(ビジネスプロセスモデルのメタモデルの意義)	1	10M-40		ビジネスプロセスモデルのメタモデルとしての「プロセス構成要素」の意義について説明したもの。概略では5個、詳細では17個のプロセス記述によって、「業務観察法」を実現した。かつ、業務参照モデルを利用することで高い生産性と品質を実現(第3者評価)。
	M800-102 技法(組織のメタモデル)	1	10M-49	1	組織のメタモデルとして、GUTSY-4において定義する項目を説明したもの。主なもの:組織名、ミッション・目的、責任、権限、組織機能、業績評価指標と報酬制度、組織内外での責任分担、組織形態と構造、組織マネジメントなど。

緑色のものは、PP資料のNoteに詳細説明あり

ワークパッケージ	説明・技法・ツール・リファレンス・事例	枚	ソース	Note	内容説明
	M800-103 技法(業務ルールのメタモデル)	2	10M-43,44	2	業務ルールのメタモデルを説明したもの。主なもの:ルール名、適用プロセス名、目的、事前条件、事後条件、標準、制約、関連ルールなど。
	M800-104 技法(人(職務能力)のメタモデル)	1	10M-52	1	人(職務能力)のメタモデルを説明したもの。主なもの:個人名、職務能力(対象ドメイン、知識、経験、適性、訓練)、能力レベルなど。
	M800-105 技法(情報エンティティのメタモデル)	1	10M-53	1	情報エンティティ(文書)のメタモデルを説明したもの。主なもの:文書コード、文書名、文書タイプ、目的、キー属性、他の文書とのリンク、ステータス、そして複数の属性。
	M800-113 REF(プロセス参照モデル:プロセスフロー)	5	02-60~64	5	プロセス参照モデルのレベル3、レベル4のプロセスフローを説明したもの。および、業務知識やコンサルティングでの利用方法を説明したもの。
	M800-114 REF(プロセス参照モデル:プロセス詳細記述書)	3	02-65,66,67	3	プロセス参照モデルのレベル3、レベル4の業務プロセス詳細記述書について説明したもの。および、業務知識やコンサルティングでの利用方法を説明したもの。
	M800-115 SCORの特徴	5	09-58		サプライチェーンのプロセス参照モデルSCORの特徴、プロセス定義例、ベストプラクティス、マトリクス体系について説明したもの。
	M800-120 REF(プロセス参照モデル:インプット、アウトプット説明書)	2	02-68,69	2	プロセス参照モデルに含まれる各プロセスに対して、プロセス詳細記述書のインプットやアウトプットについて、その主な内容について説明したもの。および、業務知識やコンサルティングでの利用方法を説明したもの。
	M800-130 REF(プロセス参照モデル:業務ルール集説明書)	2	02-70,71	2	プロセス参照モデルに含まれる各プロセスに対して、コントロール(ビジネスルール)欄に現れる業務ルールについて、その名称と定義すべき主な内容をしめたもの。および、業務知識やコンサルティングでの利用方法を説明したもの。
	M800-140 REF(内部統制リスクチェックリスト)	1	02-72	1	内部統制リスクチェックリストとは、業務参照モデル(調達、製造、受注・出荷)に関するRCM(リスクコントロールマトリクス)とコントロール手続きのテンプレートです。
	M800-150 レベル5ITプロセステンプレート	1	02-73,74	2	業務参照モデルは、レベル4までしか内蔵していません。サプライチェーンに関しては、レベル4プロセスごとに定義されたレベル5ITプロセステンプレートによって、レベル5のITプロセス候補を特定できます。これを利用して、例えば、SAP技術者が自らの開発経験をこの周辺や上位プロセスの業務知識として拡大していただけます。そして、このレベル5ITプロセステンプレートによってITプロセスを仮説することによって、現状プロセスの調査・記述、「見える化」に取り組みます。
	M800-151 業務参照モデルにおけるITシステム機能の関係1	1	02-84		業務参照モデルにおいて、標準ITシステム機能リファレンスとレベル4プロセス詳細記述書のITシステム機能との対応を説明したもの。これによって、レベル3~4のIT機能概要を洗い出せる。
	M800-152 業務参照モデルにおけるITシステム機能の関係2	1	02-85		業務参照モデルにおいて、レベル3~4のIT機能概要、およびレベル5ITプロセステンプレートとの対応を説明したもの。これによって、レベル4~5のIT機能詳細を洗い出せる。
	M800-160A 業務参照モデルのマトリクス(SC以外)	2	02-74,75	2	業務参照モデルで定義されたプロセスのパフォーマンス指標、すなわちマトリクス(測定評価尺度)を説明したもの。プロセス詳細記述書のマトリクスは、b人的販売においては、マトリクス対応表があります。
	M800-160B 業務参照モデルのマトリクス(SC)	2	02-76,77	2	プロセス参照モデルに記載されたSCORマトリクス(測定評価尺度)とその例を説明したもの。通常は、業務プロセスのパフォーマンスは、①プロセス自体のパフォーマンス、②プロセスのアウトプットに関するパフォーマンス、この2つで評価される。
	M800-170 業務参照モデルのベストプラクティス	2		2	業務参照モデルで定義されたグッドプラクティスは、プロセス参照モデルSCORに記載されたプラクティスの場合は「対応表」を参照、それ以外は、A)B)というように名称だけ記入してあります。
	M800-200 GUTSY-4のコンテンツ一覧	1	02-4	1	ビジネスアナリシス方法論GUTSY-4について、約7種類のコンテンツを説明したもの。コンテンツ個数は概算(増加していく)。
2016.1.8 追加	M800-201 4つのモデルの整合と「攻めのIT」の実現	2	10A-46	2	ビジネスプロセスを中心とすれば、4つのモデルを整合させながら、ITモデルに適切なITソリューションの選定・導入できることを説明したもの。 ①は今までの構造化プロセスを対象とした自動化、②は全プロセスを対象とした情報化と自動化の説明。

緑色のものは、PP資料のNoteに詳細説明あり

ワークパッケージ	説明・技法・ツール・リファレンス・事例	枚	ソース	Note	内容説明
2016.8.26 ここへ移動 旧C70-10- ^^^	<a href="#">M800-203A</a> 戦略からのITビジネス機能要求を構造化・実装	1	10A-119	1	レベル3におけるITへのプロセス改革要求(ITビジネス機能要求)は、レベル4プロセス設計において、プロセス構成要素のITシステム機能に反映する。これを含めたプロセス構成要素からITユーザ要求を引き出して、全てRFPに反映するため必ずITシステムに実装される。
2016.8.26 ここへ移動 旧C70-10- ^^^	<a href="#">M800-203B</a> 戦略からのITビジネス非機能要求を構造化・実装	1	10A-120	1	レベル3におけるITへのプロセス改革要求(ITビジネス非機能要求やプロセス管理要求)は、レベル4非機能要求の定義に反映し、そしてITユーザ要求(非機能)の定義と要求ITレベル5プロセス設計方針の決定を経て、全てRFPに反映するため必ずITシステムに実装される。
2017.10.19 ここへ移動	<a href="#">M800-205</a> 意思決定プロセスにおけるICTソリューション	1	10A-121	1	フェーズⅠまたはⅡ、フェーズⅢにおける意思決定プロセスのソリューションの選定までを示したもの。最終的に、未知/既知、それは組織内/組織外からの切り口での4つの類型について、選定・導入可能なICTソリューションとして、暗黙知の形式知化(事例A)、アナリティクス、OODA、AIなど。
2016.1.8 ここへ移動	<a href="#">M800-211</a> GUTSY-4における4つのモデルとフェーズ	2	10A-49	2	GUTSY-4においては、4つのモデルとサブモデルの定義が、それぞれ4つのプロジェクトフェーズに対応している。これを説明したもの。 ①は簡略説明、②が詳細説明。
	<a href="#">M800-211A</a> プロセス改革におけるプロジェクトライフサイクル	1	10A-163	1	戦略からのプロセス改革における4つのプロジェクトフェーズ、すなわちプロセス改革構想、プロセス改革企画、プロセス改革計画、プロセス改革実施、各々のフェーズ概要や見積精度を説明したもの。
	<a href="#">M800-211B</a> IT投資におけるプロジェクトライフサイクル	1	10A-164	1	戦略を反映したIT投資における4つのプロジェクトフェーズ、すなわちIT戦略構想、IT戦略企画、IT導入計画、IT導入、各々の概要を説明したもの。
	<a href="#">M800-211P</a> GUTSY-4 4つのフェーズのPLCパターン例	1	10A-165	1	GUTSY-4 プロジェクトライフサイクルのパターンとして、大規模、中規模、小規模の3つの例を紹介したものの。
2016.12.24 ここへ移動 旧C90-01-20	<a href="#">M800-212A</a> GUTSY-4 のプロジェクトライフサイクル	1	10A-167	1	GUTSY-4の各フェーズで作成する成果物としてのプロジェクト計画書は、次フェーズのプロジェクト憲章になることを説明したもの。すなわち、フェーズⅠ構想のアウトプットが次のフェーズⅡ企画のプロジェクト憲章になり、フェーズⅡ企画のアウトプットが次のフェーズⅢのプロジェクト憲章になり、フェーズⅢ計画のアウトプットが次のフェーズⅣ実行のプロジェクト憲章になります。
2016.12.24 ここへ移動 旧C90-01-20	<a href="#">M800-212B</a> GUTSY-4 によるプロジェクト憲章	1	10A-168	1	GUTSY-4の各フェーズで作成する成果物としてのプロジェクト計画書は、次フェーズのプロジェクト憲章になることを、フェーズⅠ、Ⅱ、Ⅲについて説明したもの。そして、各フェーズにおけるプロジェクト憲章の主な項目を説明。
	<a href="#">M800-213</a> GUTSY-4における組織的合意形成	3	10A-169		GUTSY-4のフェーズⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳでは、それぞれの報告書やプロジェクト計画書を作成して、プロジェクトの段階的詳細化を行って、プロジェクトリスクの低減だけでなく、大きな組織的合意形成を獲得している。これに加えて、各フェーズにおける詳細な報告書と計画書の作成、および合意形成を説明したもの。
2016.12.24 ここへ移動 旧C00-01-01A	<a href="#">M800-217A</a> GUTSY-4 ⑥によるビジネスアナリシスのビジネスへの効果	1	10A-56		GUTSY-4によるビジネスアナリシスのビジネスへの効果を説明したもの。①事業戦略をビジネスモデルとビジネスプロセスに落とし込める、②ビジネスプロセスを階層的に「見える化」できる、③ビジネスルール、特に、意思決定プロセスのノウハウが形式知化できる、④プロセス、組織・人、ITとの三位一体の改革ができる。
	<a href="#">M800-217B</a> GUTSY-4によるビジネスモデリングの主な効果	1	10A-77		GUTSY-4によるビジネスモデリングについて、その3つの効果を説明したもの。
	<a href="#">M800-218B</a> GUTSY-4によるプロセスモデリングの主な効果	1	10A-78		GUTSY-4によるプロセスモデリングについて、その3つの効果を説明したもの。
2016.12.24 ここへ移動 旧C00-01-01B	<a href="#">M800-219A</a> GUTSY-4 ⑥によるビジネスアナリシスのITへの効果	1	10A-105		GUTSY-4によるビジネスアナリシスのITへの効果を説明したもの。①経営面からのビジネス要求をITに反映できる、②使われないIT機能を要求段階(金メッキ要求や保険的要求など)で排除できる、③作業系から意思決定系業務へIT適用を拡大できる、④プロセス、組織・人との三位一体の改革によるIT投資効果の
	<a href="#">M800-219B</a> GUTSY-4によるIT要求定義の主な効果	1	10A-106		GUTSY-4によるIT要求定義について、その3つの効果を説明したもの。



緑色のものは、PP資料のNoteに詳細説明あり

ワークパッケージ	説明・技法・ツール・リファレンス・事例	枚	ソース	Note	内容説明
2016.11.23 ここへ移動	<a href="#">M800-220</a> 階層化アプローチ	2	10A-66	2	トップダウンアプローチとボトムアップアプローチを融合させた、GUTSY-4の階層化アプローチを説明したものの。すなわち、GUTSY-4では、レベル2～5までの各プロセス階層レベルにおいて、「トップの曖昧な指示にボトムが提案していく！」。
	<a href="#">M800-220A</a> GUTSY-4による階層化アプローチ	1	10A-76	1	GUTSY-4では階層化アプローチとして、ビジネスプロセスへの要求について、プロセス階層レベルに沿って、レベル0～5まで、下記のように階層的に定義していく。
	<a href="#">M800-220B</a> プロセスモデリングの起点はレベル4？レベル5？	1	10A-86		プロセスモデリングの起点について、レベル5起点の事例、レベル4起点の事例、この2つを比較したもの。
2016.1.8 ここへ移動	<a href="#">M800-221</a> 階層的なビジネスプロセスモデリング	1	10A-79	1	各プロセス階層レベルのプロセスモデリングでは、現状プロセスの調査・記述、上位設計からの構造化、現状プロセスの課題抽出、プロセス分析、プロセス設計という同一のステップを踏む。
2016.1.8 ここへ移動	<a href="#">M800-221A</a> 階層的なビジネスプロセスモデリング(構造化しない場合)	1	10A-80		階層的なビジネスプロセスモデリングにおいては、必要な場合だけ上位設計を下位プロセスに構造化する。これは、下位に構造化しない場合を説明したもの。
2016.1.8 ここへ移動	<a href="#">M800-221B</a> 業務モデリング(プロセス、ルール、情報)とIT要求	1	10A-81	1	階層的プロセスモデリングにおいて、プロセスモデルからのルール、インプット・アウトプット、IT要求の各モデルの説明(論理設計)、定義(詳細設計)の関係を説明したもの。
2016.1.8 ここへ移動	<a href="#">M800-222</a> 業務参照モデルを利用した階層的プロセスモデリング	2	10A-82,83	2	業務参照モデルを利用した、レベル1～レベル5までの階層的なプロセスモデリングを概説したもの。
2016.1.8 ここへ移動	<a href="#">M800-222A</a> 業務参照モデルを利用したプロセスモデルの記述	2	10A-85,86	2	GUTSY-4において、3種類のモデル(現状記述、分析、設計)について、各々の目的、記述の条件、そして、業務参照モデルを利用した記述方法を説明したもの。そして、現状プロセスの調査・記述の問題点をどのように解決しているかを説明した。
	<a href="#">M800-224</a> 業務参照モデルを利用した階層的ルールモデリング	1	10A-94		業務参照モデルを利用した業務ルールのモデリングの考え方を顧客別価格設定を例として説明したもの。レベル3のプロセス改革要求(業務ルール)から、これをレベル4に構造化したプロセス詳細記述書および業務ルール説明書、そしてこれをレベル5に構造化した業務ルール定義書の関係。
2017.1.24 ここへ移動	<a href="#">M800-230</a> IT要求の多段階にわたる階層的定義	1	10A-117	1	業務参照モデルを利用した、レベル1～レベル4までの階層的なIT要求定義を概説したもの。GUTSY-4では、プロセスモデリングの結果からIT要求を定義します。
2017.1.24 ここへ移動	<a href="#">M800-231</a> 階層的プロセスからのIT要求モデリング	1	10A-118		IT要求モデリングにおける各プロセス階層レベルにおけるステップを説明したもの。①現状ITの調査・記述、②プロセスからのIT要求の抽出、③現状IT課題の抽出、④IT要求の定義
2017.1.24 ここへ移動	<a href="#">M800-232</a> 概要レベルITユーザ要求、詳細レベルITユーザ要求、ソフトウェア要求仕様の関係	1	10A-121	1	概要レベル(レベル4)IT要求、詳細レベル(レベル5)IT要求、ソフトウェア要求仕様(システム要件)との相違、そして、これらを作成するレベル4要求定義、レベル5要求定義、システム分析までの、5つのステップ間の関係を説明したもの。
	<a href="#">M800-241A</a> 説明(プロセス構成要素からのIT要求定義(定型業務))	1	10A-127		定型プロセスに関して、プロセス構成要素とCobiTの情報要求規準の組合せによって、ユーザ要求を引き出すための有効な質問ができる。
	<a href="#">M800-241B</a> 説明(プロセス構成要素からのIT要求の引き出し(非定型業務))	1	10A-128		非定型プロセスに関して、プロセス構成要素とCobiTの情報要求規準の組合せによって、ユーザ要求を引き出すための有効な質問ができる。
	<a href="#">M800-242A</a> プロセス構成要素とCobiT情報要請規準との関係	2	10I-16		Cobitの情報要請規準の7つは、情報自体の品質、そして情報サービスの品質、この2つに分類できます。前者とプロセス構成要素、そして後者とプロセス構成要素の関係をしめたもの。この関係性は、M350-102 プロセス構成要素とユーザ要求インタビューシート的设计に反映しています。
	<a href="#">M800-243A</a> 事例(プロセス構成要素からのIT要求の発生(定型業務))	1	10A-130		M800-241Aについて、受注伝票入力をもとに各プロセス構成要素からIT要求を引き出し、定義した例。
	<a href="#">M800-243B</a> 事例(「見える化」からのIT要求の発生(非定型業務))	1	10I-18		「見える化」[遠藤功]の6つのカテゴリーから、これを実現するためのITへの要求定義例。
	<a href="#">M800-244A</a> 説明(IT非機能要求の発生源(定型業務))	1	10A-132	1	IT非機能要求(複数プロセス、個別プロセス、ソフトウェア品質属性)の発生源を説明したもの。



緑色のものは、PP資料のNoteに詳細説明あり

ワークパッケージ	説明・技法・ツール・リファレンス・事例	枚	ソース	Note	内容説明
	<a href="#">M800-245</a> IT要求表明の3レベル	1	10A-143		IT要求定義の3レベルの方法を説明したもの。①ビジネスプロセスからIT要求を引き出す、②要求分析、③要求レビュー。
	<a href="#">M800-251</a> 技法(ITビジネス要求の相対的重要性の算出)	1	10A-134	1	事業ドメイン、レベル1プロセス、レベル2プロセス、レベル3プロセス機能について、各々の重要性からレベル3プロセスのビジネス機能の相対的重要性を求め、それに位置するビジネス要求の相対的重要性を計算する方法を説明したもの。
	<a href="#">M800-252</a> 技法(ITビジネス要求によるITユーザ要求の優先順位付け)	1	10A-135	1	レベル4プロセスにおけるユーザ要求の優先順位について、それが属するビジネス要求の相対的重要性とそれへの貢献度から、ユーザ要求の相対的重要性を算出して、これらを集計してユーザ要求の優先順位を計算する方法を説明したもの。
	<a href="#">M800-253</a> 技法(要求仕様によるIT要求の優先順位の再計算)	1	10A-136	1	システム分析終了時において、定義されたソフトウェア要求仕様について、その実現の難易度やコストを考慮して、優先順位を再計算する方法を説明したもの。
	<a href="#">M800-260</a> IT要求定義・システム開発と各種テストとの関係	1	10A-131	1	IT要求定義・システム開発、これに対する単体・結合・統合・システム・運用テストとの関係について、それぞれの要素成果物の対応を示したもの。
	<a href="#">M800-300</a> REF (Data Model Resource Book Vol I, II [Len Silverston])	1			Len Silverstonのデータモデルの参照モデルに関する著作。Vol I では、全企業共通の人、組織、プロダクト、出荷、請求、会計などの概念データモデルを紹介。Vol II では、製造、通信、病院、保険、金融、旅行などの産業別の概念データモデルを紹介している。
	<a href="#">M800-401</a> GUTSY-4と人・組織との対応	1		1	GUTSY-4の各フェーズにおける「人・組織」への対応について、組織設計の5要素[ガルブレイス]の観点から示したもの。
合計		113		76	
	<a href="#">M900-001</a> 技法(問題・課題のレベル判別法)	1			業務インタビューシートを利用して業務課題を引き出しても、さまざまなレベルの問題・課題が出てくるので、このレベルを判別するための技法。
	<a href="#">M900-101</a> 技法(インタビュー作法)	1		1	インタビューを行う際の作法、留意点。事前準備、インタビュー開始、インタビュー、インタビュー終了時の留意事項を記述。
	<a href="#">M900-102</a> 技法(インタビュー後の日本語記述の整理)	1		1	ユーザへのインタビューやセッションでは、ランダムで冗長な言葉で表現される。これを意味を変えずに整理された日本語記述とするために、簡潔化、集約化、一般化、汎用化の4つの観点を説明したもの。
	<a href="#">M900-110</a> 技法(業務課題インタビューの留意点)	1			業務課題インタビュー時の留意点について、①事前準備する、②質問し、聞く、③記録する、④事後整理する、の観点から述べたもの。
	<a href="#">M900-151</a> 技法(問題解決型ワークショップ運営)	1			問題解決型ワークショップについて、「問題出し」と「問題特定・解決」の2段階で行う進め方をしめたもの。
	<a href="#">M900-161</a> 技法(合意形成型ワークショップ運営)	1			たとえば、特定された問題の解決に取り組むことの合意形成のためなど、合意形成型ワークショップの進め方をしめたもの。
	<a href="#">M900-171</a> 技法(ステークホルダ分析)	1		1	一つのテーマを巡って、影響関係があるステークホルダを特定して、その抵抗やステークホルダ間のコンフリクトをマネジメントする方針を立案するための技法。
	<a href="#">M900-173</a> 技法(ステークホルダとの合意形成プロセス)	1			フェーズ別のステークホルダ間のコンフリクトの解消プロセスの種類別(撤退、強制、鎮静、妥協、解決)の技法。
	<a href="#">M900-210</a> GUTSY-4における論理思考	1	10A-69	1	GUTSY-4において、論理思考・クリティカルシンキングする、相手にもさせるためのポイントを概説したものの。クリティカルシンキングする、させるための技法・ツール・事例(下記の例)を用意している。
	<a href="#">M900-211</a> GUTSY-4における論理思考(例)	1	10A-70	1	GUTSY-4における論理思考の例として、レベル2プロセス分析・設計における、各々の要素成果物の作成ステップにおいて、抽象化、構造化、類推、因果関係付け、システム思考に関する技法をどのように組み合わせているかを説明したもの。
	<a href="#">M900-220</a> GUTSY-4におけるファシリテーション	1	10A-71	1	GUTSY-4において、ユーザから課題や解決策を引き出すための、ファシリテーション技術を説明したもの。
	<a href="#">M900-221</a> GUTSY-4におけるファシリテーション(例)	1	10A-72	1	GUTSY-4において多用している質問や図などによるファシリテーションの代表例を説明したもの。 1. 質問による方法、2. 図による方法

緑色のものは、PP資料のNoteに詳細説明あり

ワークパッケージ	説明・技法・ツール・リファレンス・事例	枚	ソース	Note	内容説明
	M900-231 インスペクション	1			作業成果物をレビューする技法の一つ。成果物作成者、モデレータ(司会)、成果物の読み手、記録係、そしてインスペクタに役割分担してレビュー。
	M900-400 GUTSY-4における構造化の技法	1	10A-79	1	GUTSY-4における各プロセス階層レベルへの構造化について、各々の要素分解と詳細化の技法を説明したもの。
	M900-401 GUTSY-4における構造化(例)	2	10A-163	2	事例Aにおいて、ビジネスプロセスへの要求について、レベル0の戦略からレベル5まで、多段階にわたって絞込みながら、階層的定義した例(ETO品の受注機能だけ記載)。
	M900-402 トップダウンアプローチによる絞込み(例)	2	10A-165		事例Aではトップダウンアプローチによって、戦略(レベル0)から、レベル1、レベル2、レベル3、レベル4、レベル5と各プロセス階層レベルごとに絞り込んだ結果、最終的に設計したのは全体の約1/50に過ぎないことを説明したもの。
	M900-501 技法(設計・要求定義の形式検証、妥当性確認、レビュー)	2	10A-164、165	2	設計、要求定義において共通する形式検証、妥当性確認、レビューの主な項目とチェック方法を示したもの。および、各フェーズでのWBS・アクティビティと適用する主な手法をしめした。
	M900-550 説明(階層レベル別のプロセスフローの種類)	1	10A-12		プロセスフローの目的を説明し、その種類や表記法を階層レベル1~5別にしめたもの。 ⇒ <a href="http://process-design-eng.com/contents/model/post-3.html">http://process-design-eng.com/contents/model/post-3.html</a>
	M900-550A 説明(階層レベル別のビジネスプロセスの管理方針)	1	10M-7		プロセス階層レベル1~5までのプロセスモデリングの成果物の管理方針を説明したもの。
	M900-551 技法(階層レベル別プロセス記述の要素成果物(レベル1))	1	10M-8	1	プロセス階層レベル1におけるプロセス記述の要素成果物として、レベル1プロセス図の特徴、利用できる業務参照モデル(レベル1)について説明したもの。
	M900-552 技法(階層レベル別プロセス記述の要素成果物(レベル2))	1	10M-9	1	プロセス階層レベル2におけるプロセス記述の要素成果物として、レベル2プロセス図の特徴、利用できる業務参照モデル(レベル2)、記述する要素成果物(プロセス図とプロセス詳細記述書)の記述手法について説明したもの。
	M900-553 技法(階層レベル別プロセス記述の要素成果物(レベル3))	1	10M-10	1	プロセス階層レベル3におけるプロセス記述の要素成果物として、レベル3プロセス図の特徴、利用できる業務参照モデル(レベル3)、記述する要素成果物(プロセス図とプロセス詳細記述書)の記述手法について説明したもの。
	M900-554 技法(階層レベル別プロセス記述の要素成果物(レベル4))	1	10M-11	1	プロセス階層レベル4におけるプロセス記述の要素成果物として、プロセス図の特徴、利用できる業務参照モデル(レベル4)、要素成果物(プロセス図、プロセス詳細記述書、インプット・アウトプット説明書、業務ルール説明書)の記述手法について説明したもの。
	M900-560 技法(プロセス構造化技法の4つの種類)	1	10A-58		ビジネスプロセス(レベル2、3、4以下)からの構造化技法(即ち、要素分解と詳細化)の4つの種類として、属人的スキル、プロセス参照モデルを利用した技法、業務イベントによる技法、意思決定プロセスに対する技法を説明したもの。
	M900-561A 技法(プロセス参照モデルを利用したプロセスプロセスの要素分解)	1	10M-13	1	プロセス参照モデルを利用して、上位プロセスを下位に要素分解する技法を説明したもの。その例として、ユーザを集めたワークショップにて、プロジェクターを利用した調査・記述の手順を説明。
	M900-561B 技法(業務イベントによるプロセスの要素分解)	3	10M-14		プロセス参照モデルが存在しない場合に、作業系の上位プロセスについて業務イベントを利用して、下位に要素分解する技法を説明したもの。
	M900-561C 技法(意思決定プロセスに対するプロセスの要素分解)	2	10M-15		プロセス参照モデルが存在しない場合に、意思決定系の上位プロセスについて、意思決定ダイアグラムを利用して、下位に要素分解する技法を説明したもの。
	M900-561R 技法(プロセス記述のレビューポイント(プロセスフロー))	1	10M-17	1	ビジネスプロセス記述において、プロセスフローのレビューポイントを取りまとめたもの。
	M900-562A 技法(プロセス参照モデルを利用したプロセス詳細化)	1	10M-20	1	プロセス参照モデルのプロセス構成要素を参照して、そのプロセス構成要素、すなわち、プロセス機能、システム機能、インプット、アウトプット、業務ルール、担当組織などを詳細化する技法を説明。その例として、ユーザを集めたワークショップにて、プロジェクターを利用した調査・記述の手順を説明。
	M900-562E 技法(作業系プロセスのプロセス詳細化)	1	10M-21		プロセス参照モデルがない場合に、実行系プロセスについて、その15個のプロセス構成要素ごとの質問によって、そのプロセス構成要素、すなわち、プロセス機能、システム機能、インプット、アウトプット、業務ルール、担当組織などを詳細化する技法を説明したもの。

緑色のものは、PP資料のNoteに詳細説明あり

ワークパッケージ	説明・技法・ツール・リファレンス・事例	枚	ソース	Note	内容説明
	<a href="#">M900-562C</a> 技法(意思決定プロセスのプロセス詳細化)		10M-22		プロセス参照モデルがない場合に、意思決定系プロセスについて、意思決定ダイアグラムに対応した質問によって、そのプロセス構成要素、すなわち、プロセス機能、システム機能、インプット、アウトプット、業務ルール、担当組織などを詳細化する技法を説明したもの。
	<a href="#">M900-562R</a> 技法(プロセス記述のレビューポイント(詳細記述書))	1	10M-24	1	ビジネスプロセス記述において、プロセス詳細記述書のレビューポイントを取りまとめたもの。
	<a href="#">M900-563</a> 技法(プロセス参照モデルを利用したインプット・アウトプットの調査・記述)	1	10M-25	1	プロセス参照モデルのプロセス構成要素を参照して、インタビュー等でプロセス概要を確認した際に作成したプロセス詳細記述書メモを整理して、インプット・アウトプット説明書を作成する。
	<a href="#">M900-564</a> 技法(プロセス参照モデルを利用した業務ルールの調査・記述)	1	10M-26	1	プロセス参照モデルのプロセス構成要素を参照して、インタビュー等でプロセス概要を確認した際に作成したプロセス詳細記述書メモを整理して、業務ルール説明書を作成する。
	<a href="#">M900-571</a> 技法(プロセスフローの直観的分析法)	1	10M-18	1	プロセスと主要インプットとアウトプットだけのプロセスフローだけを見て、直観的に短時間で問題・課題を抽出する手法を説明したもの。これは、簡略的であり、必ずしもMECEな手法ではない。
	<a href="#">M900-572</a> 技法(プロセスフロー改善のECRS法)	1	10M-19		製造工程の改善を検討するECRS手法を応用して、主にプロセスフローを見て、プロセス改善を検討する手法を説明したもの。
	<a href="#">M900-575</a> 技法(プロセス構成要素別の改善点の抽出)	2	13-28,29		個々のビジネスプロセスにおいて、プロセス構成要素ごとに改善課題を抽出する観点について、整理・記述したもの。
	<a href="#">M900-580</a> GUTSY-4の全体構造	2	02-2		ビジネスアナリシス方法論GUTSY-4が、ビジネスアナリストに必要な3つの知識・スキルについて、方法論自体および業務参照モデルによってどう支援しているかを説明したもの。
	<a href="#">M900-581</a> コンサルタントvsGUTSY-4	2	04-18		属人的スキルによるコンサルタントとGUTSY-4を利用したSEとを「ビジネスアナリストに必要な3つのスキル」について比較したもの。また、合わせて、事例Bと事例Cとで説明したもの。
	<a href="#">M900-581A</a> GUTSY-4による引き出し例①	1	03-4		「業務課題の抽出」について、コンサルタントによるヒアリングとGUTSY-4の「業務課題質問シート」による手法とを比較したもの。
	<a href="#">M900-581B</a> GUTSY-4による引き出し例②	1	03-5		「現状プロセスの調査」について、コンサルタントによるヒアリングとGUTSY-4の「プロセス参照モデル」による手法とを比較したもの。
	<a href="#">M900-582A</a> GUTSY-4による分析例①	1	03-6		「事業戦略のSWOT分析」について、コンサルタントによる手法とGUTSY-4の「事前情報収集シート類」による手法とを比較したもの。
	<a href="#">M900-582B</a> GUTSY-4による分析例②	1	03-7		「レベル3プロセス分析」について、コンサルタントによる手法とGUTSY-4の「プロセス参照モデル」による手法とを比較したもの。
	<a href="#">M900-583A</a> GUTSY-4による設計例①	1	03-8		「レベル3プロセス設計」について、コンサルタントによる手法とGUTSY-4の「プロセス改革区分」による手法とを比較したもの。
	<a href="#">M900-583B</a> GUTSY-4による設計例②	1	03-9		「レベル3プロセスからのIT要求の定義」について、コンサルタントによる手法とGUTSY-4の「IT要求引出シート」による手法とを比較したもの。
	<a href="#">M900-610</a> 技法(業種別事業リスクチェックリスト)	1			戦略によるビジネスモデルへの主要な事業機能とリソースのビジネスインパクトを分析するための、8つの業種別ステークホルダ関連図に対応させて、6種類の資産別リスク、および法規制リスクの一般的チェックリスト。資産は、設備(直接的)、設備(支援的)、人的資産、物理的(棚卸)資産、財務的資産、無形資産。
	<a href="#">M900-620</a> 技法(リスク識別・評価の手法一覧)	1	10AIC-6	1	一般的なGUTSY-4に内蔵しているリスクの識別や評価における手法を一覧で表示し、その概要、どれ(ビジネスモデル、ビジネスプロセスモデル)に適用できるかを説明したもの。aとc以外の手法は、GUTSY-4に内蔵している。
	<a href="#">M900-621</a> 技法(リスクアセスメント手法(業務プロセスの分解法))	2	10AIC-7	2	ビジネスプロセスの分解法によるアサーションへのリスク識別、リスク評価、リスクコントロールについて、「資材受入」プロセスを例として説明したもの。
	<a href="#">M900-622</a> 技法(リスクチェックリスト)	1	10AIC-9		リファレンスとしてのESCORT(内部統制リスクとコントロール集)を利用して、調達、製造、受注・出荷プロセスにおける約400の標準的なリスクを識別する方法がある。ただし、網羅的リスクなので、識別したリスクの大きさを評価しなければならない。
	<a href="#">M900-623</a> 技法(リスクアセスメント手法(標準リスクモデル法))	1	10AIC-10		P・G・ミス+G・M・外が提唱しているリスクアセスメントの手法。リスク事象に関する発生確率とリスクドライバー、影響に関する発生確率と影響ドライバーという2つの観点からリスクを識別・評価する。および事例を説明。



緑色のものは、PP資料のNoteに詳細説明あり

ワークパッケージ	説明・技法・ツール・リファレンス・事例	枚	ソース	Note	内容説明
	<a href="#">M900-624</a> 技法(HHM法)	1	10AIC-13		階層ホログラフィックモデル(HHM)を作成する、すなわち第1レベル(ヘッドトピックス)から第2レベル(サブトピックス)へ、そして第2レベルから第3レベル(個別シナリオ)へと階層的にリスク要因を展開して、リスクを識別していく手法。および事例を説明。
	<a href="#">M900-625</a> 技法(RRF)法	1	10AIC-15		識別・特定されたリスク要因に対して、複数の評価軸で相対的評価を行い、リスクランキング付けとフィルタリングする手法。
合計		61		26	
事例と全面適用WBS	<a href="#">M970-001</a> GUTSY-4のWBS・アクティビティの内訳	1	02-19	1	GUTSY-4には、多くのWBS、そしてWBSにも多くのアクティビティが含まれています。これは、ビジネスアナリシス自体の多様な目的、目的、範囲、規模、困難性などに伴って、同一WBSの繰り返し、品質保証や合意形成の重要性が異なってくるからです。
	<a href="#">M970-002</a> GUTSY-4のWBS・アクティビティの選定	1	02-21		GUTSY-4では、プロジェクトの目的、範囲、規模、困難さ等によって、開始フェーズの選定、フェーズ内のWBSの選定と繰り返し回数設定、WBS内のアクティビティの選定を行うことを説明したものです。
	<a href="#">M970-010</a> GUTSY-4適用事例一覧	1	02-25		GUTSY-4適用事例(全フェーズ、フェーズ別)について、「M800-211② 4フェーズ図」にマッピングしたものです。
	<a href="#">M970-010A</a> GUTSY-4全フェーズ適用事例の概要	1	02-26		GUTSY-4適用の戦略からITまで一貫した事例A1(今野製作所第1期)、事例B(東京海上日動システムズによる保険代理店)について、コンサル側体制、プロジェクト期間、プロジェクトの特徴、効果を説明したものです。
	<a href="#">M970-010E</a> GUTSY-4フェーズ別適用事例の概要	1	02-27		GUTSY-4のフェーズ別適用事例を一覧にしたものです。フェーズIからフェーズIVまで、合計9つのプロジェクトの概要をしめしている。
	<a href="#">M970-011A1</a> GUTSY-4のWBS・アクティビティの選定例A1	9			事例A1について、プロジェクトの特徴、および選定したWBS・アクティビティを説明したものです。フェーズI～フェーズIIIまでを実施、フェーズIVはWBS記述を省略。
	<a href="#">M970-011A2</a> GUTSY-4のWBS・アクティビティの選定例A2	5			事例A2について、プロジェクトの特徴、および選定したWBS・アクティビティを説明したものです。予め、対象スコープが明確だったため、フェーズIIからフェーズIIIまでを実施、フェーズIVはWBS記述を省略。
	<a href="#">M970-012</a> GUTSY-4のWBS・アクティビティの選定例B	6			事例Bについて、プロジェクトの特徴、および選定したWBS・アクティビティを説明したものです。参加メンバーの業務知識を付けるため、まずフェーズIII(現状の見える化)を実施してから、フェーズIからフェーズIIIまでを実施、フェーズIVはWBS記述を省略。
フェーズ別適用WBS	<a href="#">M970-030</a> GUTSY-4のフェーズ別適用事例のWBS	1	02-23	1	GUTSY-4について、4フェーズを一貫した適用ではなく、フェーズ内で完了した適用事例を紹介したものです。4つの事例を記載。
	<a href="#">M970-031A</a> GUTSY-4のフェーズ別適用WBS:事例1-1	1		1	フェーズIのプロセス改革構想フェーズだけの事例。費用対効果があるIT戦略構想を立案。外資系コンサル会社がボトムアップアプローチからの課題解決によるIT構想について、経営陣から効果への不満が出ました。GUTSY-4を適用し、4つの事業部、5つの主力工場について、トップダウンアプローチから事業戦略およびSCM課題を抽出してその解決案としてのIT戦略構想を立案しました。
	<a href="#">M970-032A</a> GUTSY-4のフェーズ別適用WBS:事例2-1	1		1	フェーズIIのプロセス改革企画フェーズだけの事例。まず、サプライチェーン(日本、東南アジアの生産拠点、米国の販売会社)のビジネスプロセスについて、プロセス階層レベル3で可視化を行い、次に、これを利用して、生産拠点の計画プロセス診断を行いました。
	<a href="#">M970-032B</a> GUTSY-4のフェーズ別適用WBS:事例2-2	1		1	フェーズIIプロセス改革企画フェーズだけの事例。保守サービス拠点に対するサービス部品の供給に関して、詳細なプロセスフローを記述しても根本原因を特定できなかった後を受けて、GUTSY-4のレベル2プロセス分析・設計とレベル3プロセス分析・設計を行って、プロセスの欠落という根本原因を特定して改善案を作成しました。
	<a href="#">M970-033C</a> GUTSY-4のフェーズ別適用WBS:事例3-2	1		1	合併した企業における受注・出荷システムの再構築のために、プロセスの見える化と標準化を実施した事例。過去の挫折した「巻紙分析」の残骸を再利用して、現状プロセスの調査・記述の工数を押さえながら、9通りの業務シナリオを整理、これを標準化して、システム統合へのメドを付けました。
目的別適用WBS	<a href="#">M970-050</a> GUTSY-4の目的別適用WBSの概要	1	02-24	1	目的別にGUTSY-4のWBSを選択・適用する7つのケースについて、それぞれ説明したものです。



緑色のものは、PP資料のNoteに詳細説明あり

ワークパッケージ	説明・技法・ツール・リファレンス・事例	枚	ソース	Note	内容説明	
	M970-051	目的別WBS:ITシステム機能の調査・可視化	12		現状ITシステムのドキュメントが不完全で、実装されている機能が分からない。特に、ITシステムロジックになっているルールは、ユーザも分からない場合の現状ITシステム機能の可視化。特に、ITシステムロジックとしてブラックBOXとなっている業務ルールと内容を明確にしたい。	
	M970-052	目的別WBS:ITビジネス要求の補完と再定義	4		新ITシステムに対する重点施策が定義されているが、プロセス階層レベルがバラバラでMECEでないため、このままではITユーザ要求に反映できない場合に、これを補完してITビジネス要求を定義して、ITユーザ要求に反映できるようにする。	
	M970-053	目的別WBS:現状ITプロセスの調査・記述「見える化」			ヒアリングによって抽出されたIT要求について、対象とするビジネスプロセス機能面からレビューして、モレの防止、および金メッキ要求を排除する。	
	M970-054	目的別WBS:新たなプロセスの設計とIT要求定義				
	M970-055	目的別WBS:ソフトウェア保守要求のレビューと再定義	6		提出されたソフトウェア保守要求について、目的とするIT要求や対象とするビジネスプロセス機能面からレビューして、より良い保守要求を定義、不要な保守を排除する。	
ソリューション別適用WBS	M970-100	フェーズⅣのERP成果物と要素成果物	3		ERPを選定した場合に、WBS・アクティビティにおいて、作成すべき成果物と要素成果物、それらの事例を説明したもの。	
ITシステム事例	M980-101	GUTSY-4によるITシステム事例[中小企業]	2	20-115,116	2	GUTSY-4を適用した後のITシステム事例として、中小企業の事例Aにおいて、「3種類のシステムの連携による統合システムの実現」を説明したもの。統合業務システムと言われるERPを導入しても、これはITシステムとして統合しただけである。ビジネスプロセスを中心に考えれば、複数のITシステムの情報・データが必要な場合にそれが実現されれば良いだけで、それぞれのITシステムがバラバラであろうと、一つに統合されていようと無関係である。
合計			58		9	
フェーズⅠ	P100-001	説明(フェーズⅠのマイルストーンスケジュール)	1			「フェーズⅠ:戦略要素の構造化によるプロセス改革構想」における、3カ間と成果物作成の平均的なマイルストーンスケジュール例をしめたもの。
	P100-002	説明(フェーズⅠのプロジェクト体制と各々の役割)	1			フェーズⅠにおける、スポンサー、委員会、プロジェクトマネジャーと事務局、PMO、業務部門、構想チーム、外部コンサルタントのプロジェクト体制と各々の役割をしめたもの。
	P100-003	説明(フェーズⅠのプロジェクトマネジメントプロセス)	1			フェーズⅠにおける、スコープ、スケジュール、コスト、品質、リスクのマネジメントプロセスについて、計画、実行、監視・コントロールの概要をしめたもの。
	P110-101	説明(プロジェクト憲章(フェーズⅠ、Ⅱ、Ⅲ))	1			フェーズⅠ(構想)、Ⅱ(企画)、Ⅲ(計画)におけるプロジェクト憲章の主要な項目(目的、ビジネスニーズ、ステークホルダのニーズ、アウトプットと対象範囲、アウトプットと特性、成果物と要素成果物、達成目標)をし
フェーズⅡ	P200-001	説明(フェーズⅡのマイルストーンスケジュール)	1			「フェーズⅡ:プロセス上位設計によるプロセス改革企画」における、3カ間と成果物作成の平均的なマイルストーンスケジュール例をしめたもの。
	P200-002	説明(フェーズⅡのプロジェクト体制と各々の役割)	1			フェーズⅡにおける、スポンサー、委員会、プロジェクトマネジャーと事務局、PMO、業務部門、企画チーム、外部コンサルタントのプロジェクト体制と各々の役割をしめたもの。
	P200-003	説明(フェーズⅡのプロジェクトマネジメントプロセス)	1			フェーズⅡにおける、スコープ、スケジュール、コスト、品質、リスクのマネジメントプロセスについて、計画、実行、監視・コントロールの概要をしめたもの。
フェーズⅢ	P300-001	説明(フェーズⅢのマイルストーンスケジュール)	1			「フェーズⅢ:プロセス中位設計によるプロセス改革計画」における、3カ間と成果物作成の平均的なマイルストーンスケジュール例をしめたもの。
	P300-002	説明(フェーズⅢのプロジェクト体制と各々の役割)	1			フェーズⅢにおける、スポンサー、委員会、プロジェクトマネジャーと事務局、PMO、業務部門、設計チーム、外部コンサルタントのプロジェクト体制と各々の役割をしめたもの。
	P300-003	説明(フェーズⅢのプロジェクトマネジメントプロセス)	1			フェーズⅢにおける、スコープ、スケジュール、コスト、品質、リスクのマネジメントプロセスについて、計画、実行、監視・コントロールの概要をしめたもの。
	P320-712	説明(ERP導入のリスク(スキームモデル版))	1			ERP導入のスキーム(構想、企画、計画)を作成する際、スポンサー、ステークホルダ、要求事項など10のリスクカテゴリーについて、主なリスク、リスクの影響(スキーム)、リスクの影響(次のERP導入時)をしめたも
	P320-713	REF(要求定義のリスクチェックリスト)	1			要求定義、すなわち全体、要求管理、要求の引き出し、要求分析、要求の仕様化、要求の妥当性確認の各々のフェーズにおける、代表的なリスク、リスクによる悪影響、リスク対応策例をしめたもの。

緑色のものは、PP資料のNoteに詳細説明あり

ワークパッケージ	説明・技法・ツール・リファレンス・事例	枚	ソース	Note	内容説明	
フェーズIV	<a href="#">P400-001</a>	説明(フェーズIVの成果物ネットワーク図)	1			「フェーズIV:プロセス下位設計によるプロセス改革実施」における、4種類の成果物(業務プロセス、情報システム(ERP、非ERP)、マスタ・データ、人)を作成するための成果物と要素成果物の関係をネットワーク図でしめたもの。
	<a href="#">P400-002</a>	説明(フェーズIVのプロジェクト体制と各々の役割)(ERP/IT導入)	1			フェーズIVのERP/IT導入における、スポンサー、委員会、プロジェクトマネジャーと事務局、PMO、業務チーム、開発チーム、ベンダー/パートナーのプロジェクト体制と各々の役割をしめたもの。
	<a href="#">P400-003</a>	説明(フェーズIVのプロジェクトマネジメントプロセス)	1			フェーズIVにおける、スコープ、スケジュール、コスト、品質、リスクのマネジメントプロセスについて、計画、実行、監視・コントロールの概要をしめたもの。
	<a href="#">P420-011</a>	技法(変更管理プロセス(ERPの場合))	1			フェーズIVのERP/IT導入における、CCB(変更管理委員会)の設置、変更の受付から変更の実施までの変更管理プロセスを決定、ステークホルダの承認を得る。各(小)フェーズにおいてはこれに沿って、変更管理
	<a href="#">P420-101</a>	技法(フェーズIVの計画プロセス(ERPの場合))	1			フェーズIVのERP/IT導入における、プロジェクト計画、プロセス設計、ERP/IT開発・実装、テストと移行、初期稼働、これら5つの(小)フェーズに関するプロジェクト計画の詳細プロセスを説明したもの。
	<a href="#">P420-601</a>	技法(コミュニケーションマネジメント計画プロセス(ERPの場合))	1			フェーズIVのERP/IT導入におけるコミュニケーションマネジメント計画の立案のための詳細プロセスを説明したもの。ステークホルダ分析を行い、情報収集や情報配布の計画の詳細プロセスを説明したもの。
	<a href="#">P420-602</a>	事例(コミュニケーションマネジメント計画(ERPの場合))	1			立案されたコミュニケーションマネジメント計画として、5つの(小)フェーズにおけるステークホルダ別に情報収集と情報配布についてのコミュニケーション目的とその方法を説明したもの。
	<a href="#">P420-701</a>	技法(リスクマネジメント計画プロセス(ERPの場合))	1			フェーズIVのERP/IT導入におけるリスクマネジメント計画の立案のための詳細プロセスを説明したもの。変化する恐れがある前提条件や一般的なリスクを識別、リスク分析を行って、その対応策を立案する。
	<a href="#">P420-712</a>	説明(ERP導入のリスク(システムモデル版))	1			ERP導入を実際に行う際、スポンサー、ステークホルダ、要求事項など10のリスクカテゴリーについて、主なリスク、リスクの影響、リスクの影響をしめたもの。
	<a href="#">P420-713</a>	REF(ERP導入のリスクチェックリスト)	1			フェーズIVのERP/IT導入の5つの(小)フェーズ別に、よく発生する一般的なリスクをリストアップし、そのリスク識別方法やリスク対応策をしめたもの。
	<a href="#">P430-011</a>	技法(フェーズIVの実行・コントロールプロセス(ERPの場合))	1			フェーズIVのERP/IT導入の各々の(小)フェーズ共通として、WBSの実行、プロジェクト進捗情報の収集と分析、スコープ、スケジュール、コスト、品質などのコントロールの詳細プロセスを説明したもの。
	<a href="#">P440-021</a>	技法(フェーズIVの変更管理(ERPの場合))	1			フェーズIVのERP/IT導入の各々の(小)フェーズにおいて、変更管理を実施するための詳細プロセスを説明したもの。
	<a href="#">P440-701</a>	技法(リスクの監視・コントロール(ERPの場合))	1			フェーズIVのERP/IT導入の各々の(小)フェーズにおいて、前提条件の変化、識別済のリスクの発生の監視、新たなリスクを識別して、必要な場合にはリスク対応策を実施する。
	<a href="#">P450-011</a>	技法(フェーズIVのフェーズ別完了プロセス(ERPの場合))	1			フェーズIVのERP/IT導入における5つの(小)フェーズに関して、成果物の検取作業を行い、(小)フェーズの完了を上位員会に報告し、次の(小)フェーズに進むかどうかの判断を得る。最後の(小)フェーズの場合は、フェーズIVのプロジェクト完了となる。
	共通	<a href="#">P910-101</a>	ツール(プロジェクト憲章テンプレート[PMI日本支部])	1		
<a href="#">P910-102</a>		説明(プロジェクトスポンサーの役割(ERPの場合))	1			フェーズIVのERP/IT導入における、プロジェクトスポンサーとステアリング委員会(運営委員会)の役割、およびプロジェクト成功のためのCSFとの関係を説明したもの。
<a href="#">P910-103</a>		説明(プロジェクトマネジャーの役割(ERPの場合))	1			プロジェクト外部インターフェースとして、あるいはプロジェクト内部インターフェースとしてのプロジェクトマネジャーの役割について、ERP/IT導入との関係でフェーズII、III、IV別に示したもの。
<a href="#">P910-104</a>		説明(プロジェクトマネジャーの資質(ERPの場合))	1			ERP導入のプロジェクトマネジャーの資質について、変革リーダーとしての資質、コンピテンシー、一般マネジメント知識・スキル、経営・業務とERPに関する知識・スキル、プロジェクトマネジメント知識・スキル別にしめ
<a href="#">P920-011</a>		ツール(プロジェクトマネジメント計画書テンプレート[PMI日本支部])	1			PMI日本支部が作成したPMBOK3に準拠した「プロジェクトマネジメント計画書」のヒナ型、テンプレート。これを使用する場合には、PMI日本支部に加入する必要がある。
<a href="#">P920-102</a>		ツール(スコープマネジメント計画書テンプレート[PMI日本支部])	1			PMI日本支部が作成したPMBOK3に準拠した「スコープマネジメント計画書」のヒナ型、テンプレート。これを使用する場合には、PMI日本支部に加入する必要がある。
<a href="#">P920-111</a>		ツール(プロジェクトスコープ記述書テンプレート[PMI日本支部])	1			PMI日本支部が作成したPMBOK3に準拠した「プロジェクトスコープ記述書」のヒナ型、テンプレート。これを使用する場合には、PMI日本支部に加入する必要がある。
<a href="#">P920-112</a>		技法(WBSの構造と必要情報)	1			WBSには成果物を定義するためのワークグループとワークパッケージがあり、そのための中間成果物を作成するためのアクティビティとタスクがある。インプットやアウトプット、目的などWBSが持つべき項目を説明し

緑色のものは、PP資料のNoteに詳細説明あり

ワークパッケージ	説明・技法・ツール・リファレンス・事例	枚	ソース	Note	内容説明
	<a href="#">P920-201</a> ツール(マスタ・データ移行の標準作業タスク)	1			マスタ・データ移行に関する成果物(主にワークグループ)、要素成果物(主にワークパッケージ)、中間成果物(主にアクティビティ)から作業(タスク)までのWBSのヒナ型、テンプレートを提供するもの。
	ツール(ユーザ教育の標準作業タスク)	1			ユーザ教育に関する成果物(主にワークグループ)、要素成果物(主にワークパッケージ)、中間成果物(主にアクティビティ)から作業(タスク)までのWBSのヒナ型、テンプレートを提供するもの。
	ツール(統合テストの標準作業タスク)	1			統合テストに関する成果物(主にワークグループ)、要素成果物(主にワークパッケージ)、中間成果物(主にアクティビティ)から作業(タスク)までのWBSのヒナ型、テンプレートを提供するもの。
	ツール(システムテストの標準作業タスク)	1			システムテストに関する成果物(主にワークグループ)、要素成果物(主にワークパッケージ)、中間成果物(主にアクティビティ)から作業(タスク)までのWBSのヒナ型、テンプレートを提供するもの。
	ツール(運用テストの標準作業タスク)	1			運用テストに関する成果物(主にワークグループ)、要素成果物(主にワークパッケージ)、中間成果物(主にアクティビティ)から作業(タスク)までのWBSのヒナ型、テンプレートを提供するもの。
	<a href="#">P920-241</a> ツール(スケジュールマネジメント計画書[PMI日本支部])	1			PMI日本支部が作成したPMBOK3に準拠した「スケジュールマネジメント計画書」のヒナ型、テンプレート。これを使用する場合には、PMI日本支部に加入する必要がある。
	<a href="#">P920-311</a> ツール(コストマネジメント計画書[PMI日本支部])	1			PMI日本支部が作成したPMBOK3に準拠した「コストマネジメント計画書」のヒナ型、テンプレート。これを使用する場合には、PMI日本支部に加入する必要がある。
	<a href="#">P920-401</a> ツール(品質マネジメント計画書[PMI日本支部])	1			PMI日本支部が作成したPMBOK3に準拠した「品質マネジメント計画書」のヒナ型、テンプレート。これを使用する場合には、PMI日本支部に加入する必要がある。
	<a href="#">P920-501</a> ツール(要員マネジメント計画書[PMI日本支部])	1			PMI日本支部が作成したPMBOK3に準拠した「要員マネジメント計画書」のヒナ型、テンプレート。これを使用する場合には、PMI日本支部に加入する必要がある。
	<a href="#">P920-502</a> ツール(プロジェクト組織図[PMI日本支部])	1			PMI日本支部が作成したPMBOK3に準拠した「プロジェクト組織図」のヒナ型、テンプレート。これを使用する場合には、PMI日本支部に加入する必要がある。
	<a href="#">P920-601</a> ツール(コミュニケーションマネジメント計画書[PMI日本支部])	1			PMI日本支部が作成したPMBOK3に準拠した「コミュニケーションマネジメント計画書」のヒナ型、テンプレート。これを使用する場合には、PMI日本支部に加入する必要がある。
	<a href="#">P920-701</a> ツール(リスクマネジメント計画書[PMI日本支部])	1			PMI日本支部が作成したPMBOK3に準拠した「リスクマネジメント計画書」のヒナ型、テンプレート。これを使用する場合には、PMI日本支部に加入する必要がある。
	<a href="#">P920-711</a> REF(プロセス改革プロジェクトリスクチェックリスト)	1			プロセス改革の各々のフェーズについて、10のリスクカテゴリーについて代表的なリスクをリストアップしたもの。さらに、リスクの重要度、およびGUTSY-4の工夫で発生しないリスクを明確にした。
	<a href="#">P920-712</a> ツール(リスクリスト)	1			個別のリスクを管理するためのリスト。リスク識別名、リスク事象(契機)、リスク識別・評価法、トリガー、リスク事象のドライバーと評価基準、影響と影響のドライバーと評価基準などから期待損失の計算までを管理する。
	<a href="#">P920-713</a> 技法(標準リスクモデルによるリスク識別)	1			P・G・ミス+G・M・刈刈が提唱する標準リスクモデルによるリスク識別の方法。リスク事象のドライバーとリスク事象の発生確率によりリスク事象が発生し、それは影響ドライバーと影響の発生確率によって実際の影響と標準リスクモデルによって、リスク事象ドライバーと影響ドライバーを評価して、これらの積から最終的に3段階のリスク定性評価を行った事例。
	<a href="#">P920-721</a> 事例(標準リスクモデルによるリスク定性評価)	1			標準リスクモデルによって、リスク事象ドライバーと影響ドライバーを評価して、これらの積から最終的に3段階のリスク定性評価を行った事例。
	<a href="#">P920-741</a> ツール(リスク対応計画[PMI日本支部])	1			PMI日本支部が作成したPMBOK3に準拠した「リスク対応計画」のヒナ型、テンプレート。これを使用する場合には、PMI日本支部に加入する必要がある。
	<a href="#">P940-601</a> ツール(実績報告書[PMI日本支部])	1			PMI日本支部が作成したPMBOK3に準拠した「実績報告書」のヒナ型、テンプレート。これを使用する場合には、PMI日本支部に加入する必要がある。
合計		52		0	